



京都府京田辺市

# 口仲谷古墳群発掘調査報告書

—松井宮田54-1ほか造成工事に伴う発掘調査—

2014

京田辺市教育委員会





# 口仲谷古墳群発掘調査報告書

—松井宮田 54 - 1 ほか造成工事に伴う発掘調査—

2014

京田辺市教育委員会







調査前調査地全景（南から）







調査後調査地全景(南から)







2号墳主体部完掘状況（東から）



10号墳主体部完掘状況（南西から）



# 例 言

1. 本書は京田辺市松井宮田54-1ほかにおける造成工事に伴うくちなかたに口仲谷古墳群の発掘調査報告書である。
2. 現地調査及び整理報告は、京田辺市教育委員会、堀之内建材株式会社、特定非営利活動法人文化財支援センターの三者で覚書を締結して実施した。
3. 現地調査は平成23年12月16日に開始し、平成24年7月31日に終了した。
4. 発掘調査の面積は、2209㎡である。
5. 発掘調査及び本報告書作成にあたっては、下記の体制にて行った。  
調査主体・・・京田辺市教育委員会  
調査指導機関・・・京都府教育委員会・京田辺市文化財保護委員会  
調査担当者・・・京田辺市教育委員会 社会教育・スポーツ推進課 文化財保護係 鷹野一太郎  
調査技術員・・・特定非営利活動法人文化財支援センター 河野凡洋・大橋裕子  
発掘調査作業・・・有限会社 スペース・バリュー  
計測技師・・・浅川永子・小林雅幸・内川博之  
整理作業・・・井上真紀
6. 調査を実施するにあたって、堀之内建材株式会社には多大なるご協力とご支援を賜った。ここに記して感謝の意を表します。
7. 発掘調査中及び本書を作成するにあたり、下記の方々からご協力を得ることができた。ご芳名を記して感謝の意を表します。(五十音順・敬称略)  
岡島俊也(公益財団法人枚方市文化財研究調査会)、小泉裕司(城陽市教育委員会)  
小森俊寛・大洞真白・備前知世(八幡市教育委員会)
8. 本書で使用した地図は国土地理院1:25,000地形図「田辺」で、第1・2図はそれを編集し使用した。
9. 遺跡および遺構の位置は世界測地座標系により示した。標高は海拔標高(T.P)である。
10. 土色は小山正忠・竹原秀雄『新版 標準土色帖』日本色研事業株式会社 に準じた。
11. 図面及び写真は京田辺市教育委員会が保管している。
12. 本書の執筆は1を鷹野、2・5を鷹野と河野、3を河野、4を河野と大橋が執筆し、本書の編集は鷹野、河野が行った。

## 本文目次

1. はじめに	1
2. 位置と環境	2
3. 調査の経過	4
4. 調査の概要	13
(1) 調査の目的と方法	13
(2) 各古墳の概要	13
1) 1号墳	14
2) 2号墳	18
3) 8・9号墳	28
4) 10号墳	32
5) 11号墳	41
6) 13号墳	45
7) 自然地形、その他	49
5. まとめ	62

## 挿図目次

巻頭図版 1	調査地全景（南から）	
巻頭図版 2	調査地全景（南から）	
巻頭図版 3	上 2号墳主体部完掘状況（東から）	
	下 10号墳主体部完掘状況（南西から）	
第 1 図	調査地位置図	1
第 2 図	周辺遺跡図	3
第 3 図	調査前作業風景	4
第 4 図	3号作業風景	4
第 5 図	空撮風景	5
第 6 図	記者発表	6
第 7 図	現地説明会	6
第 8 図	2号墳作業風景	6
第 9 図	調査区設定図	7
第 10 図	調査前地形測量図	折込み
第 11 図	調査後地形測量図	折込み
第 12 図	調査前作業風景（東から）	13

第13図	1号墳地形測量図	14
第14図	1号墳東西土層断面図	15
第15図	1号墳調査前遠景（北西から）	16
第16図	1号墳調査風景（東から）	16
第17図	1号墳調査経過（東から）	17
第18図	1号墳調査後全景（東から）	17
第19図	2号墳調査前遠景（南東から）	18
第20図	2号墳墳丘平・断面図	19
第21図	2号墳調査経過遠景（東から）	19
第22図	2号墳埋葬主体部平・断面図	20
第23図	2号墳土層断面図	折込み
第24図	2号墳埋葬主体部木棺跡完掘状況（南東から）	23
第25図	2号墳埋葬主体部完掘状況（南東から）	23
第26図	2号墳埋葬主体部木棺跡完掘状況（南西から）	24
第27図	2号墳第1埋葬主体部完掘状況（西から）	24
第28図	2号墳第2埋葬主体部完掘状況（西から）	24
第29図	2号墳盛土掘削経過1（南から）	25
第30図	2号墳盛土掘削経過2（南から）	25
第31図	2号墳地形測量図（地山面）	26
第32図	2号墳調査風景（南から）	26
第33図	2号墳調査後全景（南から）	27
第34図	2号墳調査後遠景（南から）	27
第35図	8・9号墳地形測量図	28
第36図	8・9号墳東西土層断面図	29
第37図	8・9号墳調査前全景（西から）	30
第38図	8・9号墳調査風景（東から）	30
第39図	8・9号墳調査経過（東から）	31
第40図	1・8・9号墳調査後遠景（東から）	31
第41図	10号墳調査前遠景（東から）	32
第42図	10号墳墳丘平・断面図	33
第43図	10号墳調査経過（南から）	33
第44図	10号墳埋葬主体部平・断面図	34
第45図	10号墳土層断面図	折込み
第46図	10号墳調査風景（南東から）	37
第47図	10号墳埋葬主体部木棺跡完掘状況（南から）	37
第48図	10号墳埋葬主体部完掘状況（南から）	38
第49図	10号墳南側区画溝（南から）	38
第50図	10号墳土壙完掘状況（南から）	39
第51図	10号墳調査後全景（南西から）	39
第52図	10号墳地形測量図（地山面）	40
第53図	10号墳調査後遠景（南から）	40



第54図	11号墳地形測量図	41
第55図	11号墳東西土層断面図	42
第56図	2号墳(手前)11号墳(奥)調査経過遠景(北西から)	43
第57図	11号墳調査風景(東から)	43
第58図	11号墳調査後全景(南から)	44
第59図	11号墳調査後遠景(東から)	44
第60図	13号墳地形測量図	45
第61図	13号墳北西南東土層断面図	46
第62図	13号墳調査前遠景(東から)	47
第63図	13号墳調査風景(西から)	47
第64図	13号墳調査経過(東から)	48
第65図	13号墳調査後遠景(東から)	48
第66図	3・4号地点調査前全景(西から)	49
第67図	3・4号地点調査風景(北から)	49
第68図	3・4号地点地形測量図	50
第69図	3号地点南北土層断面図	51
第70図	4号地点南北土層断面図	52
第71図	3・4号地点谷調査風景(北西から)	53
第72図	3・4号地点調査後全景(南東から)	53
第73図	3号地点調査後全景(南東から)	54
第74図	4号地点調査後全景(南東から)	54
第75図	12号地点地形測量図	55
第76図	12号地点土層断面図	56
第77図	調査区東端トレンチ完掘状況	57
第78図	調査区東端トレンチ土層断面図	58
第79図	12号地点調査風景(南から)	59
第80図	12号地点調査後全景(北から)	59
第81図	調査区東端トレンチ調査前全景(北西から)	60
第82図	調査区東端トレンチ調査風景(北西から)	60
第83図	調査区東端トレンチ完掘全景(北西から)	61

## 表 目 次

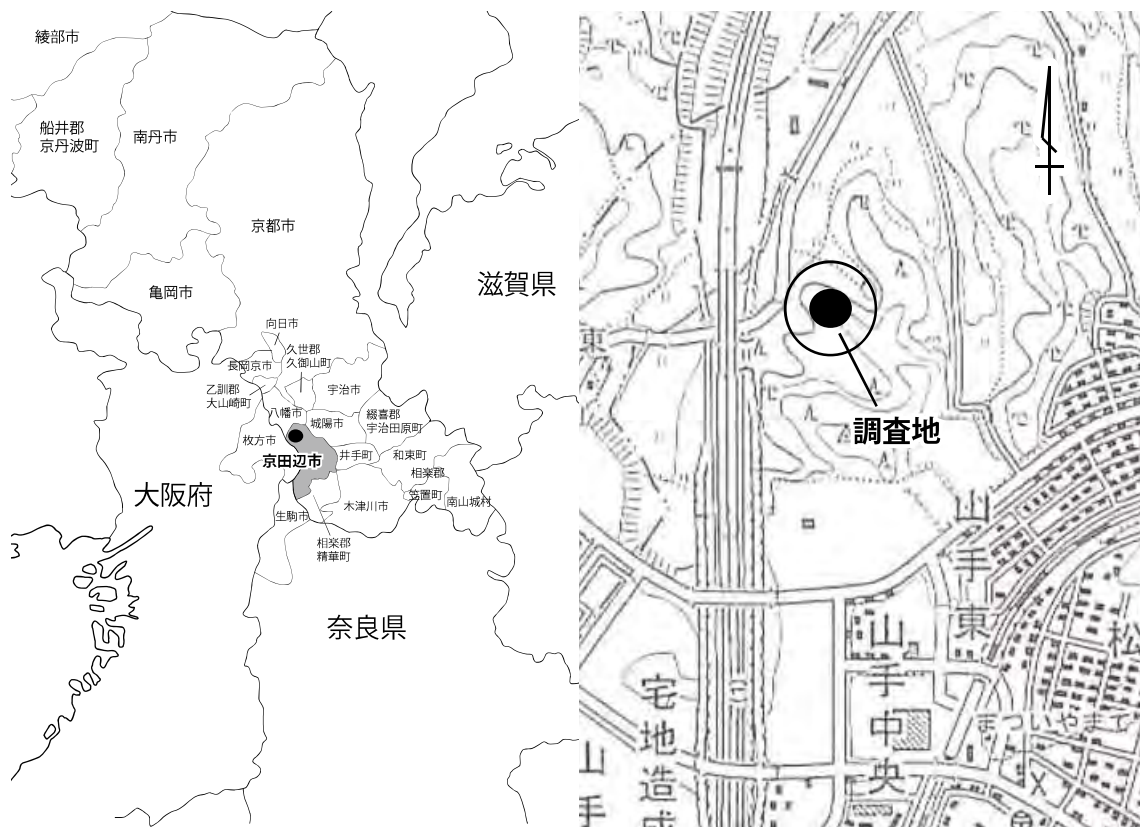
第1表	口仲谷古墳群一覧表	61
-----	-----------	----

# 1.はじめに

くちなかたに  
口仲谷古墳群は京都府京田辺市松井宮田、口仲谷の丘陵稜線上に立地する古墳時代後期の古墳群として知られている。遺跡は、水田面から一段高い低丘陵上に存在するが、近年の宅地開発は、これまで手つかずにおかれた丘陵部にもおよび、市内の景観は刻一刻と変化してきている。

堀之内建材株式会社では、口仲谷古墳群を含む一帯で造成工事を計画され、平成20年春頃から古墳群の取扱いについて、京田辺市教育委員会と協議を重ねていたが、当委員会では古墳群の現地保存が不可能の場合は、所要区域の全面発掘調査が必要な旨伝えていた。その後事業が本格化し平成22年8月26日に文化財保護法第93条第1項に基づく届出があり、諸条件が整った同社では、発掘作業を特定非営利活動法人文化財支援センターに委託、当委員会と二者で平成23年12月13日に発掘調査に関しての覚書を締結、現地作業は平成23年12月16日から開始し、平成24年7月31日に終了した。その後、整理作業を文化財支援センター桃山整理室で行った。

なお、事業者である堀之内建材株式会社の方々をはじめ、関係機関・地元住民の方々、また極寒・降雪・雨天のなかにおいても作業に従事された皆さん、その他多くの方々のご協力によって今回の調査を実施することができた。記して感謝の気持ちとしたい。



第1図 調査地位置図

## 2. 位置と環境

京田辺市は、京都府南部に広がる南山城平野のほぼ中央部、伊賀山中に源を発する木津川左岸に位置し、北は京都府八幡市、東は木津川を挟んで城陽市・井手町、南は相楽郡精華町、西は大阪府枚方市・奈良県生駒市と接している。市の西部は、生駒山系に連なる甘南備丘陵で、東部は北流する木津川によって形成された沖積平野が広がっている南北に長い市である。砂礫層の多い大阪層群からなる西部の丘陵地は起伏が著しく、丘陵から流れ出る小河川が開析谷・扇状地を形成している。また、小河川の多くは平野部において、人為的な改修も手伝い、人家の屋根より川床が高い天井川という独特の景観を作り出した。

口仲谷古墳群は、京田辺市の最北部、生駒山系から続く沖積層の丘陵上にあり、東から西の谷部に延びる低丘陵上に位置している。すぐ西側を第二京阪道路が走っており、八幡市との市境に接している。現在では大規模な住宅街のすぐ近くという印象だが、住宅街はかつては広大な丘陵地であった。

当古墳群を含む松井地域や北西に位置する八幡市南端の美濃山地域一帯は弥生時代から集落が営まれたようである。丘陵地には、中期の向山遺跡・美濃山遺跡、後期の美濃山廃寺下層遺跡がある。

古墳時代には調査地南東の大住地域に大住南塚古墳・大住車塚古墳の2基の周濠をもつ前方後方墳が前期末、中期初頃に相次いで築かれ、美濃山地域では近年の調査で中期の前方後円墳であることがわかった美濃山大塚古墳が造られる。

古墳時代後期になると丘陵上や裾部に方墳や円墳が築造されるが、この時期には当古墳群周辺では墳丘をもつ古墳よりも横穴が多く築かれている。調査地北東の松井地域には松井横穴群、調査地北から北西の美濃山地域には女谷・荒坂横穴群、狐谷横穴群、美濃山横穴群がみられる。女谷・荒坂横穴群では90基近くが、松井横穴群では70基が発掘調査され、多数の遺物などがみついている。一部では8世紀まで追葬が行われていた。これらの横穴群では合計数百基以上の存在が推定され、近畿地方で最大の横穴墓地帯となり、その性格等新たな解釈が求められるようになった。集落としては古墳時代後期から飛鳥時代にかけての竪穴住居跡が多数みつかった門田遺跡や新田遺跡が存在する。

奈良時代になると全国的にも珍しい覆鉢形土製品や奈良三彩が多数みつかった美濃山廃寺が創建される。複数の建物跡がみつきり平安時代までは存続していたようである。大住地域でも古代寺院の存在が予想されている。また、低地の門田遺跡や新田遺跡でも奈良時代から中世にかけての遺構がみついている。門田遺跡では現在の集落に接したところから中世のムラの跡もみつかったほか、安土桃山時代の慶長元年（1596）に発生した伏見地震によるものとされる液状化現象の痕跡である噴砂の跡が各所でみられ、近年全国的に注目された。





### 3. 調査の経過

調査は平成23年（2011）12月16日より開始した。まず、調査前の現況写真をラジコンコントロールヘリにより空中撮影をし、また、地形測量を行った。

翌年1月10日より作業員を入れての調査を開始した。以前は竹林であったが、事業者により伐採されていた。しかし、残された竹屑や落ち葉等に覆われていたため、事前にこれらの片付けを行い、1月16日にはほぼ終了したため、人力により表土掘削を開始した。

表土掘削は4号墳東端、10号墳から開始した。これらは造成工事の関係上、先行して調査をすることとなったものである。また、表土掘削と同時に竹の根を抜いていく作業も行った。

1月16日より4号墳は東端のみではなく主体部の有無を確認するため東半分を含めて調査をすることにした。表土掘削後、すぐに地山面が現れた。墳丘盛土はなく、埋葬主体部の痕跡も確認できなかった。西半の調査も考えられたが、10号墳の調査を優先するため、2月2日に調査を中断した。

1月25日から10号墳の表土掘削を開始した。表土掘削後、南側は直ぐに地山面であったが、中心付近から北側には墳丘盛土が残っており、埋葬主体部を検出した。その後、区画溝を検出した。

2月16日には4号墳の西半分の表土掘削を開始した。表土掘削後は、東半分と同様に直ぐに地山面が現れ、墳丘盛土や埋葬主体部の痕跡は確認できなかった。

3月1日、10号墳の調査終了。また、3号墳の表土掘削を開始した。3号墳も表土掘削後、直ぐに地山面が現れ、墳丘盛土や埋葬主体部は確認できなかった。

3月11日以降11号墳、2号墳、13号墳、1号墳、8号墳、



第3図 調査前作業風景



第4図 3号作業風景

9号墳と東から西へ向かって順に表土掘削を進めることにした。

3月16日、断ち割りによって3号墳と4号墳との間にある谷の流土の堆積が厚いことが判明した。このため、重機によって掘削することとなった。

3月27日には表土掘削の目処がついたため、2号墳から調査することとした。表土掘削後、墳丘盛土が確認できたため精査を開始した。

3月30日、3号墳、4号墳間の谷の重機掘削が終了した。

4月10日、2号墳は墳丘盛土の検出作業が終了したため、埋葬主体部の検出を開始した。また、13号墳の精査を開始した。表土下は地山面であったため、盛土は確認できなかった。さらに埋葬主体部も検出されなかった。

4月12日、11号墳も表土下は地山面であり墳丘盛土は確認できなかった。埋葬主体部の痕跡を探すため精査をしたが、確認できなかった。

4月13日に2号墳の墳丘盛土上の西側で埋葬主体部を検出した。

4月17日、13号墳の東南側と北西側にも谷がありその部分を重機によって掘削することとし、作業を開始した。

4月19日、4号墳の全景写真を撮影し、調査を終了した。

4月24日、1号墳は表土掘削後、墳丘盛土と疑わしい土がみられたため、確認のための精査を開始した。また、13号墳東南側の重機掘削が終了した。

4月25日、3号墳全景写真を撮影し、調査を終了した。

4月27日、2号墳は検出した埋葬主体部が想定する墳丘中央より西側に位置するため、中央と見られる位置で埋葬主体部の検出作業をした。検出された埋葬主体部は西側のものと直線的に並ぶものであった。

5月7日、1号墳は精査により表土下の土は地山と判断した。また、埋葬主体部は検出されなかった。

5月14日、8号墳と9号墳は当初、別古墳と考えていたが、表土掘削後の精査により2つの遺構の間にある谷状の部分は削平されたものであったため同一のものとした。

5月16日から13号墳北西の谷部分の重機掘削を開始し、18日に終了した。

5月23日、他の古墳には墳丘盛土、埋葬主体部がなく、2号墳にのみ墳丘盛土が残り



第5図 空撮風景



埋葬主体部の並びに特徴があったため、他の古墳の調査を優先させるため2号墳の調査を中断した。

5月24日に11号墳の全景写真を撮影し、調査を終了した。

5月30日、1号墳、8・9号墳の全景写真を撮影し、調査を終了した。

5月31日、13号墳の全景写真を撮影し、調査を終了した。

6月1日からラジコンヘリによる空中写真撮影のための清掃を開始した。

6月11日にラジコンヘリによる空中撮影を行った。

6月12日、報道関係者への調査成果発表を行った。

6月16日、小雨のなか現地説明会を開催し、参加者は55人であった。

6月18日から2号墳の調査を再開し、7月20日に全景写真を撮影し、調査を終了した。

7月31日に撤収を完了して現場作業を終了した。

なお、各遺構の写真撮影及び土層断面、地形測量は工程ごとに行った。



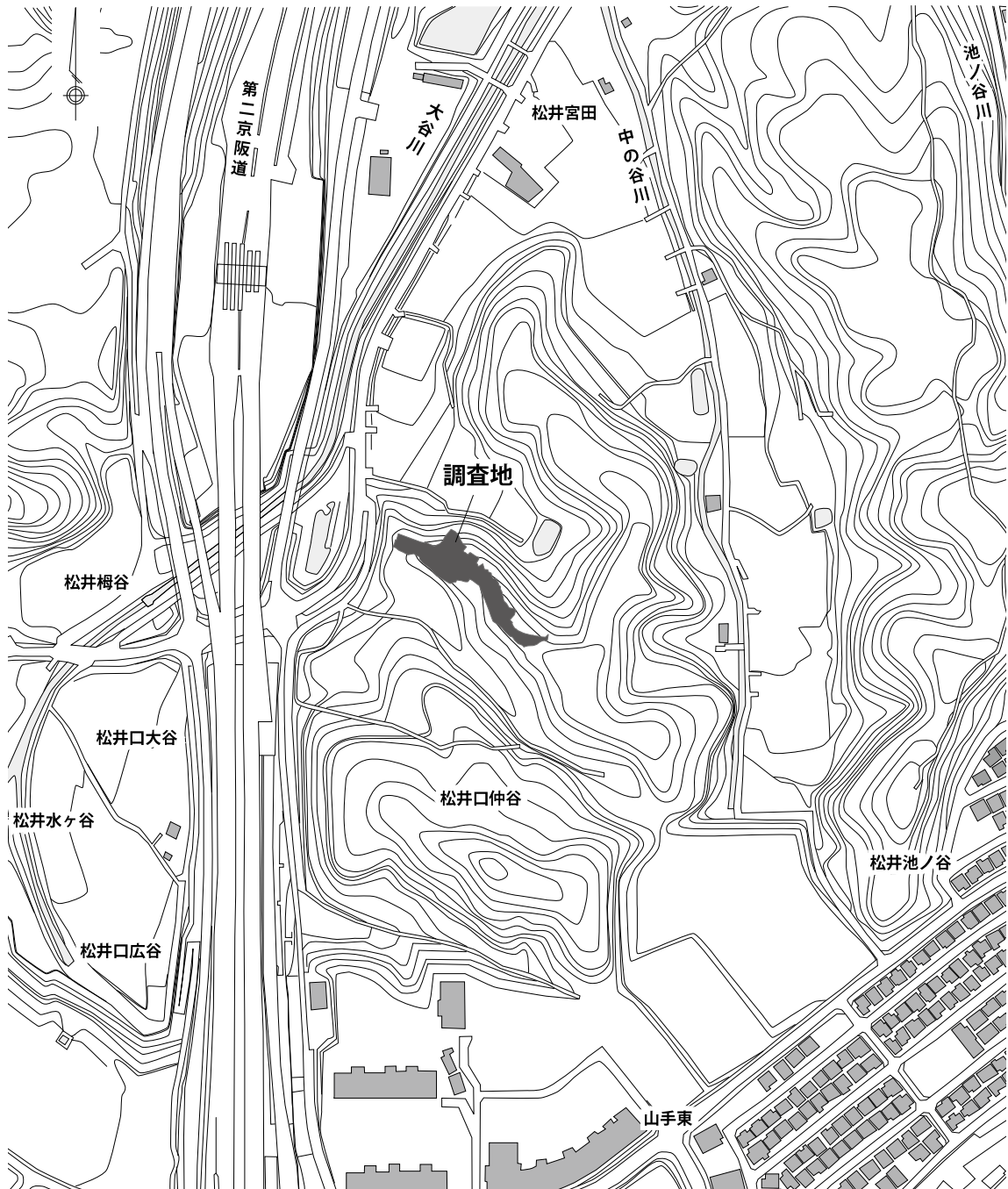
第6図 記者発表



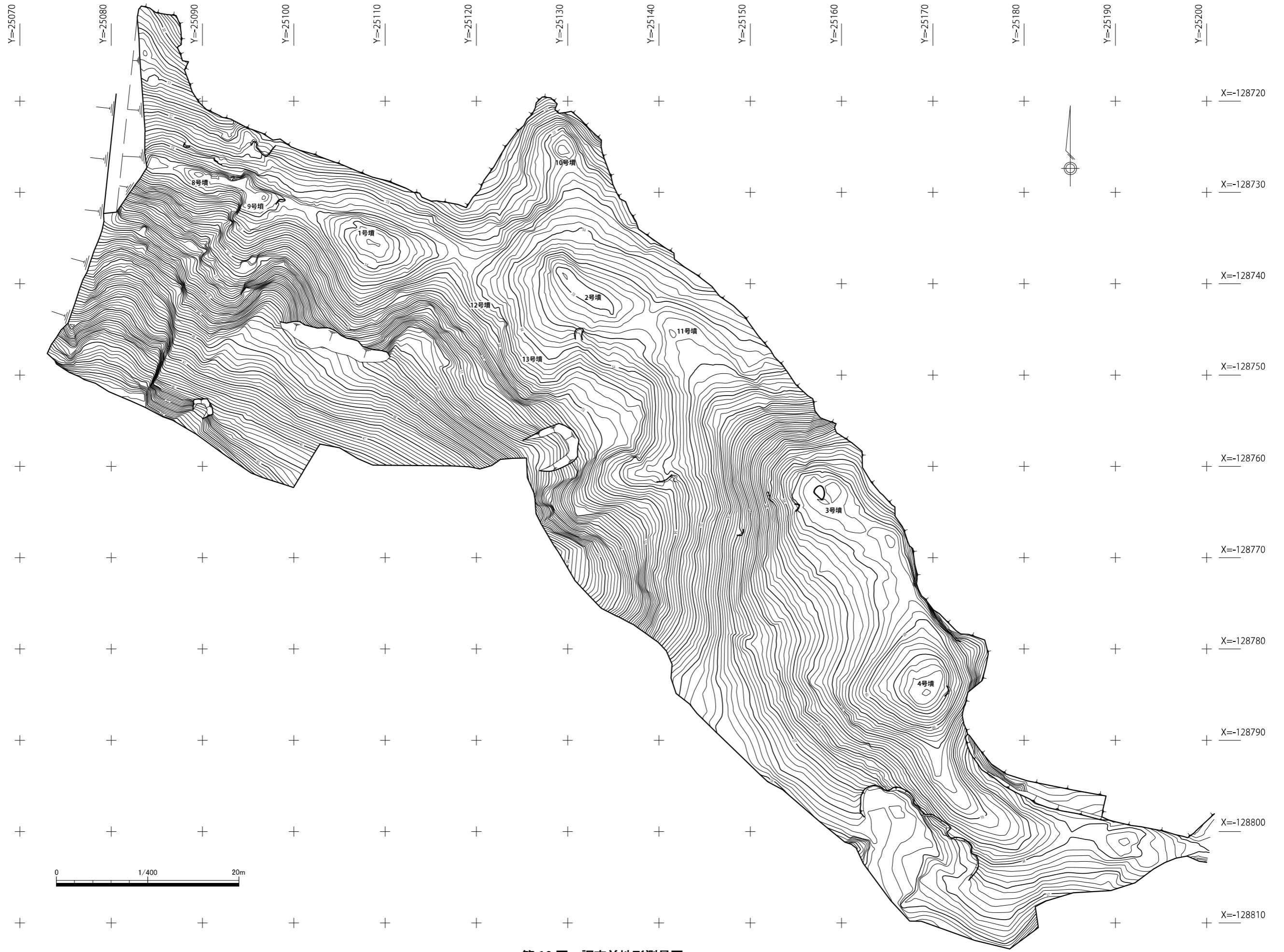
第7図 現地説明会



第8図 2号墳作業風景

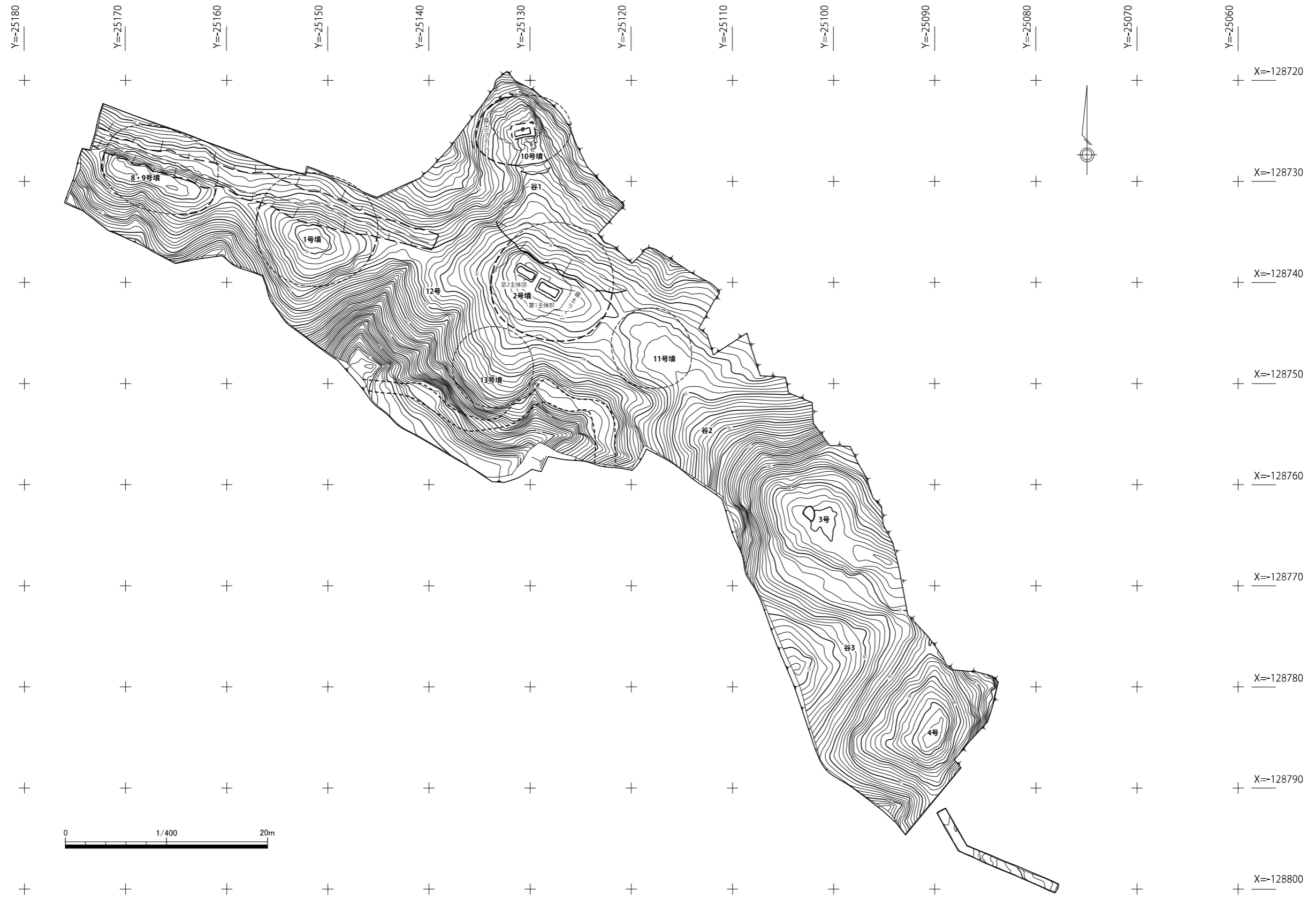


第9図 調査区設定図



第 10 図 調査前地形測量図





第 11 図 調査後地形測量図



## 4. 調査の概要

### (1) 調査の目的と方法

当地では以前から4基の古墳の存在が知られており、平成3年度に財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターによって3基(5～7号墳)が調査され、3基とも円墳であることが確認された。遺物の出土が無く細かな時期の特定が困難であったが、古墳時代後期のものと推考された。その際、新たに9基が確認され13基の古墳が存在しているという認識に至った。

今回の調査では、残り10基が古墳であるかを確認すると共に、遺物の存在を確認し古墳自体の時期や埋没した時期等を特定することを主とした目的とした。

調査範囲は原則、丘陵頂部の稜線から南北10m幅であったが、古墳本体の大きさ又は位置により、また地形の確認のために適宜範囲を変えた。そして、西端の隣地との境界からは約0.5m幅で間をとった。

以前は竹林であったため、その整備による改変や竹の根等により攪乱されていた。調査対象である10基の古墳本体と見られる範囲については、人力によって表土以下、自然堆積土を墳丘盛土もしくは地山面に達するまで一段ずつ掘削していった。墳丘盛土も人力で段階を経て掘削した。また、埋葬主体部の埋土は篩いにかけて細かく確認した。

各古墳間にある谷や墳丘裾以下は堆積状況を確認の上、重機掘削によるか人力掘削によるかを随時判断した。起伏があり、竹の根元も残っていたため、移動の危険を考えベルトコンベヤーは使用せず排土は人力にて運搬した。

地形測量はトータルステーション及び電子平板を使用し、土層断面は写真測量によった。

### (2) 各古墳の概要

今回調査対象となった古墳は計10基である。基本層序は表土、流出土が堆積し、そのすぐ下は地山となっていた。表土直下の地山は主に黄褐色系の砂土か砂礫土で、地点によって灰白色の砂土、砂礫土、シルト、粘質土がある。その下層は、いずれかの互層で構成されていた。

なお、調査の結果から古墳ではなく自然地形と判断したものについては号のみで記す。また、古墳、自然地形と分けて報告する。

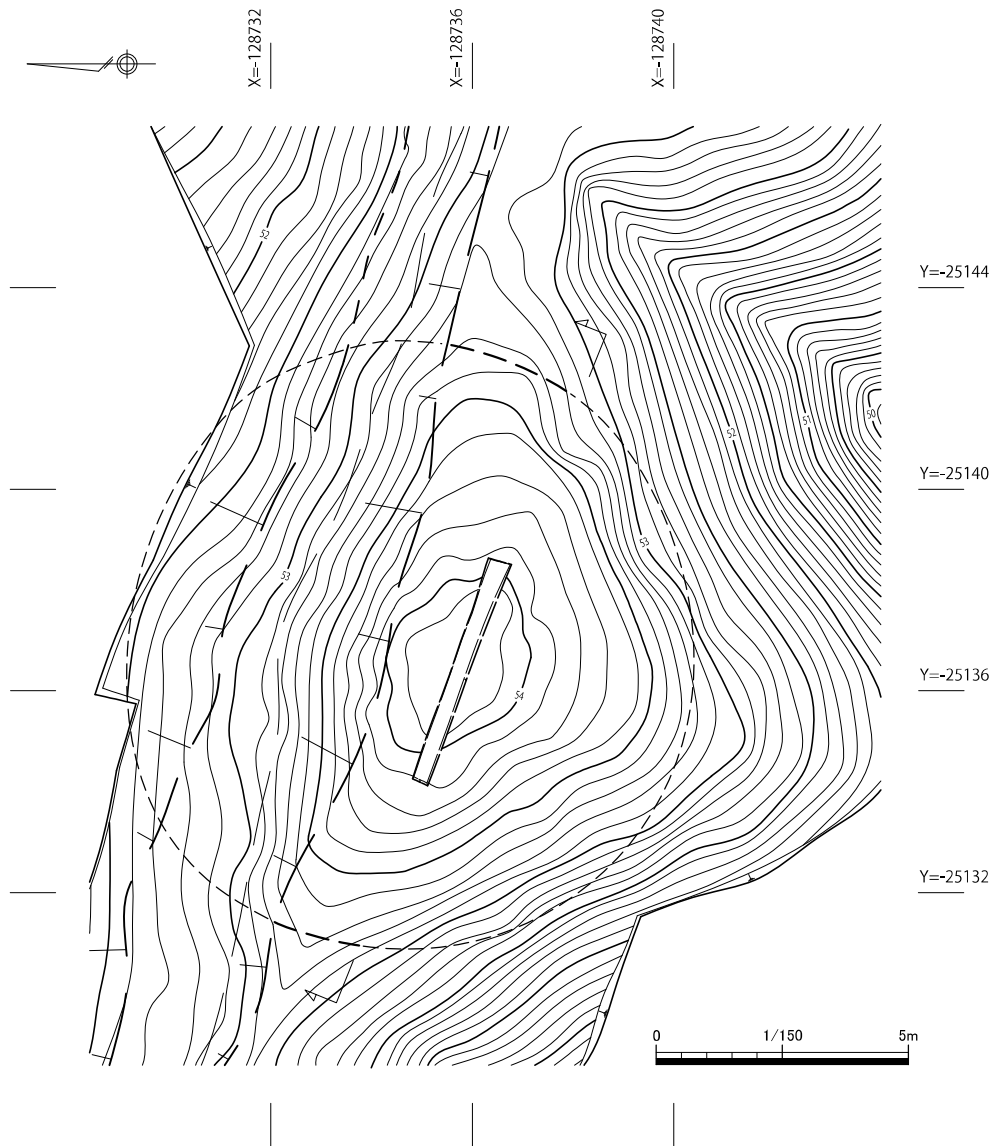


第12図 調査前作業風景(東から)

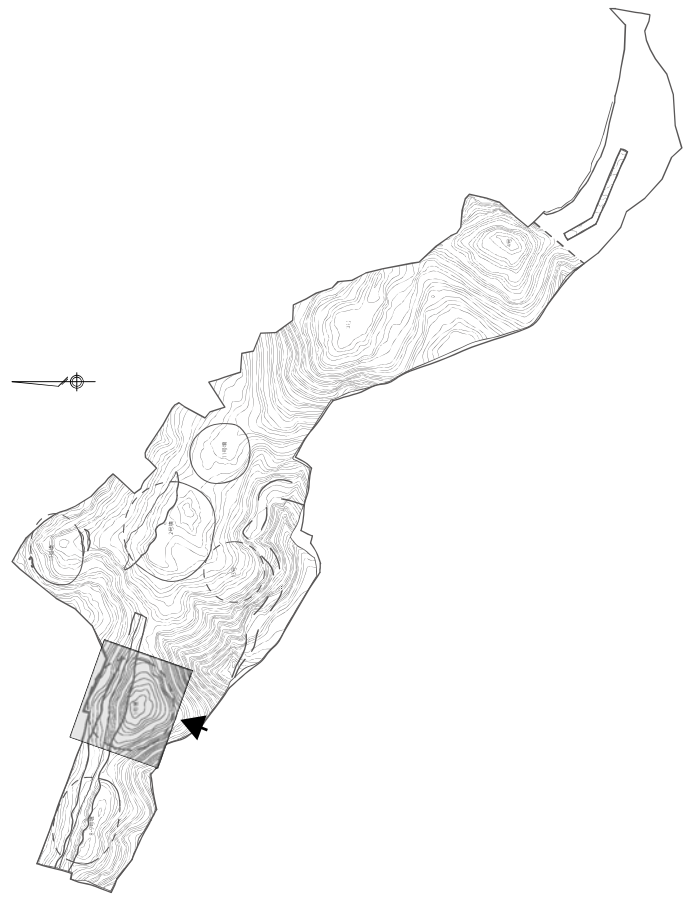
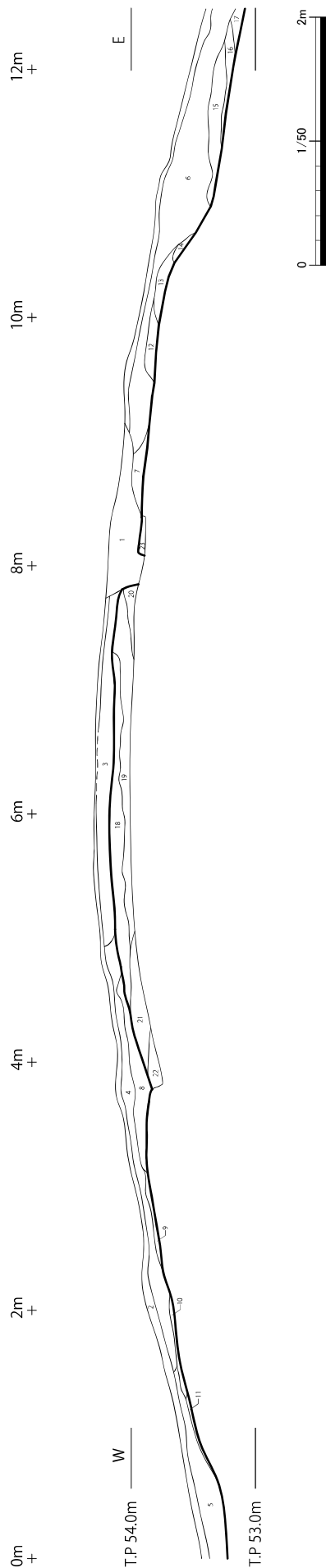
### 1) 1号墳

2号墳より西の尾根上に造られている。調査後の最高所は54.16mである。表土、自然堆積土、そのすぐ下で黄褐色系砂質土の地山層を検出した。そのため、墳丘の盛土は流出したものと考えられた。

尾根筋上にある傾斜変換点を墳丘基底と考え古墳と判断した。本来の頂部を平坦に削り、土を盛り墳丘を造成していたと考えられるが、尾根の平坦部はあまり広くない。また、北側は竹林造成等に伴う削平で地形が大きく改変されている。そのため、全容は不明ではあるが、長径約12.0m、短径約11.4mの円形の古墳であったとみられる。また、区画溝や埋葬主体部は確認できなかった。遺物の出土はない。



第 13 図 1号墳地形測量図



- 1 竹根
- 2 表土
- 3 10YR6/8 明黄褐色粗砂質土に10YR8/2 灰白色シルトが混じる
- 4 10YR7/2 にぶい黄褐色細砂質土
- 5 10YR6/4 にぶい黄褐色粘質土 (8.9号填西一東セクション35と同層)
- 6 10YR6/6 明黄褐色粗砂質土に10YR8/2 灰白色シルトが混じる
- 7 7.5YR4/6 褐色粗砂質土
- 8 7.5YR5/6 明褐色粗砂質土に10YR7/2 にぶい黄褐色粗砂質土が混じる
- 9 10YR6/3 にぶい黄褐色粗砂質土
- 10 2.5Y7/4 浅黄色細砂質土に(5mm~2cm程の礫を2%含む)
- 11 7.5YR5/6 明褐色粗砂質土
- 12 10YR6/8 明黄褐色粗砂質土に10YR8/2 灰白色シルトが混じる
- 13 10YR6/4 にぶい黄褐色粗砂質土
- 14 10YR5/6 黄褐色粗砂質土 (φ 3mm~2cm程の礫を1%含む)
- 15 7.5YR4/8 褐色細砂質土 (φ 3mm~1.5cm程の礫を1%含む)
- 16 10YR8/8 黄褐色細砂質土 (φ 3mm~4cm程の礫を2%含む)
- 17 10YR6/8 明黄褐色粘質土 (5mm~4cm程の礫を2%含む)
- 18 10YR6/6 明黄褐色粘質土と2.5Y8/1 灰白色粗砂質土 《地山》
- 19 10YR7/4 にぶい黄褐色粘質土と2.5Y8/2 灰白色粗砂質土 《地山》
- 20 7.5YR5/8 明褐色粗砂質土と10YR7/2 にぶい黄褐色粗砂質土 (マンガンを多く含む) 《地山》
- 21 2.5Y8/3 淡黄色粗砂質土 《地山》
- 22 5YR5/8 明赤褐色粗砂質土に5YR5/4 にぶい赤褐色粗砂質土が混じる 《地山》
- 23 7.5YR5/8 明赤褐色粗砂質土 《地山》

第 14 図 1号墳東西土層断面図



第 15 図 1号墳調査前遠景（北西から）



第 16 図 1号墳調査風景（東から）





第 17 図 1号墳調査経過（東から）



第 18 図 1号墳調査後全景（東から）

## 2) 2号墳

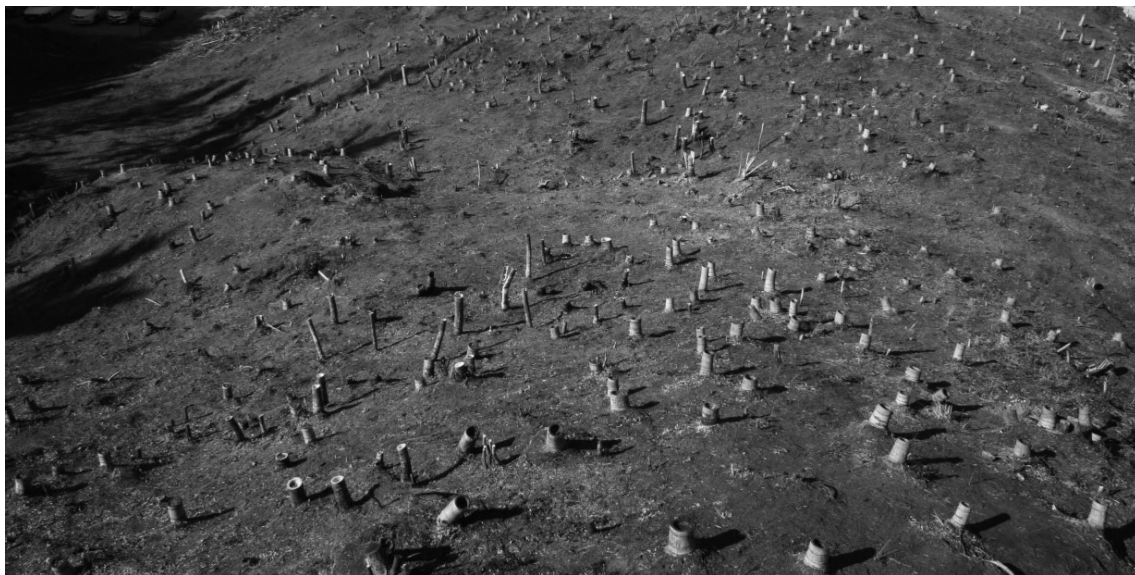
調査地のほぼ中央で、尾根が大きく広がる場所に位置し、北側には支尾根が続き10号墳が位置する。長径12.6m、短径は推定10.8mの楕円形の古墳である。調査後の最高所は54.84mである。

北側は削平されており墳頂も既に流失していたが、地山の上に盛土を検出した。盛土は大きく分けて黄色の強い粘質土と赤色の強い粘質土であった。自然地形の窪みにまず黄色の強い粘質土を入れ、その上から赤色の強い粘質土を盛ることによって墳丘を造っていた。また、墳丘基底は北西側で削り出したと見られる段は確認できたが、南西側にはみられず自然地形の斜面をそのまま利用していた。しかし、南東側は根攪乱や削平により明確な痕跡は確認できなかった。また、区画溝は確認できなかった。

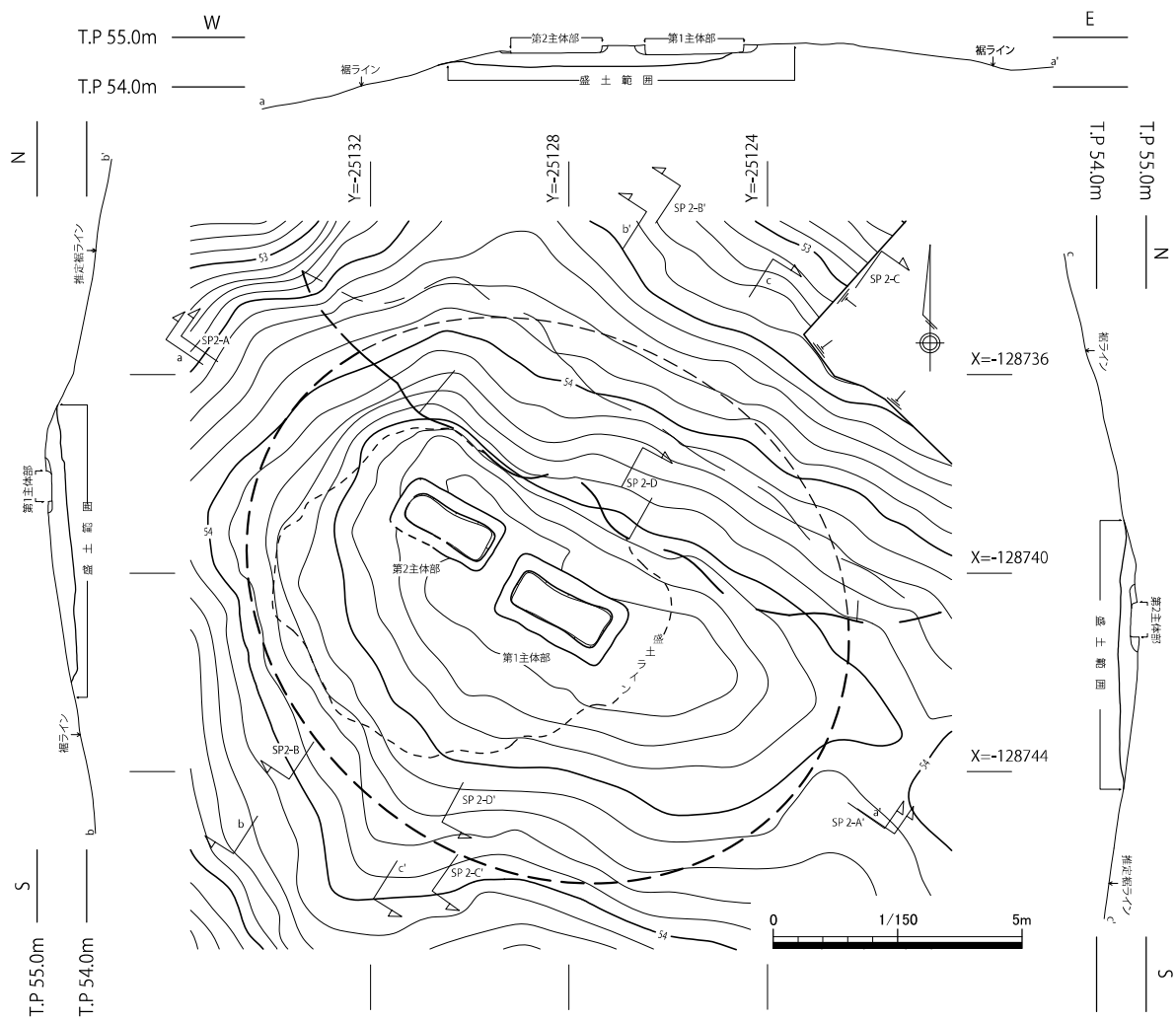
検出した墳丘盛土の上部は崩れていたが、一段掘削後に中央とその西側に埋葬主体部を検出した。中央のものを第1主体部とし、西側のものを第2主体部とした。いずれも木棺直葬で、主軸は北西—南東である。第1主体部の規模は墓坑掘方で、長さ2.4m、幅約1.4mである。木棺跡は長さ2.0m、幅約0.7m、検出面からの深さで約0.2mである。第2主体部は西側が竹の根により埋土が変色していたが、規模は墓坑掘方で、長さ約2.2m、幅約1.1mと推定できる。木棺跡は長さ1.8m、幅0.6～0.75m、検出面からの深さで約0.2mとみられる。第1主体部に比べ第2主体部は小さいものであった。

どちらも赤味の強い粘質土を掘り込んで底部を平坦にして埋葬されたとみられ、また、第1主体部では西側の地山を一部切り込んで墓坑が掘られている。現状では切り合い関係は確認できなかった。また、木棺を埋葬した底部の深さの高低差はあまりない。

この2基の主軸はいずれも北西—南東方向で、直列して直線的に並んで埋葬されている。これは通常よく見られる追葬の形である並列とは異なるものである。いずれからも副葬品やその他の遺物は出土していない。



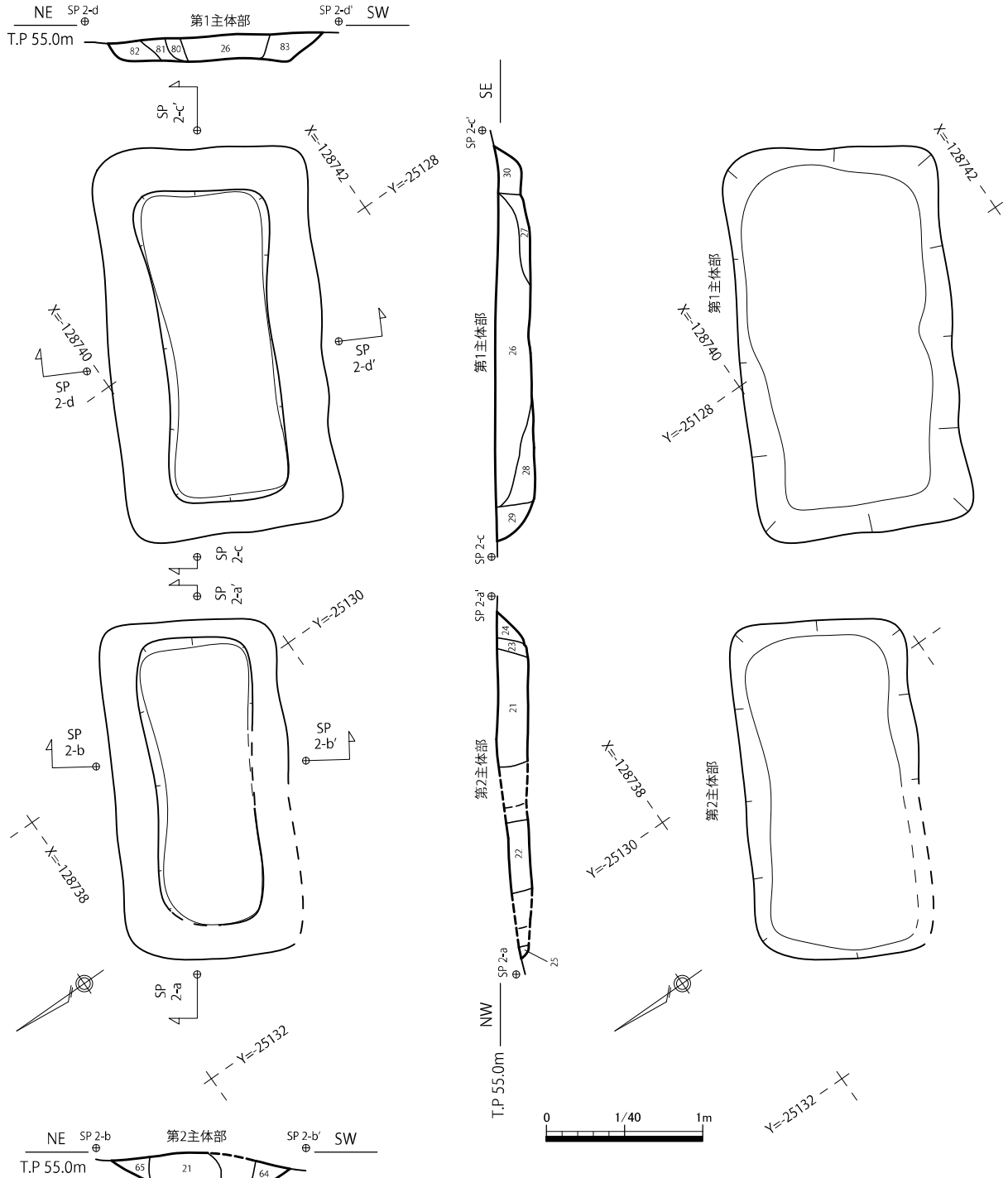
第19図 2号墳調査前遠景（南東から）



第 20 図 2号墳墳丘平・断面図



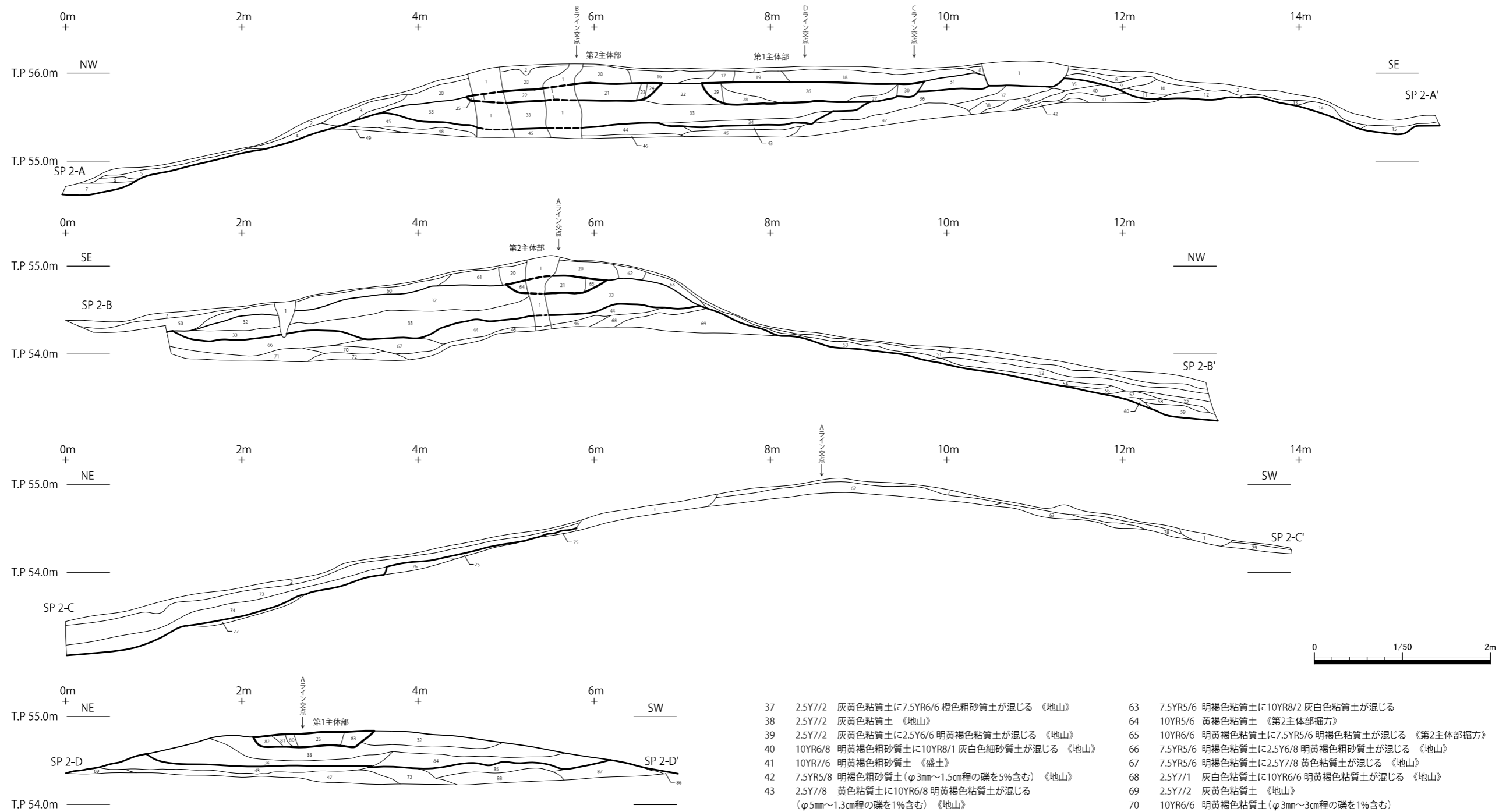
第 21 図 2号墳調査経過遠景（東から）



- |    |   |    |  |
|----|---|----|--|
| 21 | 7.5YR5/6 明褐色細砂質土に10YR6/4 にぶい黄橙色粘質土が混じる<br>《第2主体部埋土》 | 29 | 10YR7/4 にぶい黄橙色粘質土に7.5YR5/6 明褐色粘質土が混じる<br>《第1主体部掘方》 |
| 22 | 10YR5/6 黄褐色粘質土 《第2主体部木棺跡》                           | 30 | 10YR7/6 明黄褐色粘質土に7.5YR5/6 明褐色粘質土が混じる<br>《第1主体部掘方》   |
| 23 | 10YR6/4 にぶい黄橙色粘質土に7.5YR8/1 明褐色粘質土が混じる<br>《第2主体部木棺跡》 | 64 | 10YR5/6 黄褐色粘質土 《第2主体部掘方》                           |
| 24 | 10YR6/6 明黄褐色粘質土 《第2主体部掘方》                           | 65 | 10YR6/6 明黄褐色粘質土に7.5YR5/6 明褐色粘質土が混じる<br>《第2主体部掘方》   |
| 25 | 10YR7/6 明黄褐色粗砂質土 《第2主体部掘方》                          | 80 | 7.5YR5/6 明黄褐色粘質土に10YR8/2 灰白色粘質土が混じる<br>《第1主体部埋土》   |
| 26 | 10YR6/6 明黄褐色粗砂質土と7.5YR5/6 明褐色粘質土の混土<br>《第1主体部埋土》    | 81 | 10YR7/8 明黄褐色粘質土に7.5YR5/6 明褐色粘質土が混じる<br>《第1主体部掘方》   |
| 27 | 7.5YR5/6 明褐色粘質土に10YR7/8 黄褐色粘質土が混じる<br>《第1主体部埋土》     | 82 | 10YR7/6 明黄褐色粘質土に10YR7/4 にぶい黄橙色粘質土が混じる<br>《第1主体部掘方》 |
| 28 | 7.5YR5/6 明褐色粘質土に10YR7/4 にぶい黄橙色粘質土が混じる<br>《第1主体部埋土》  | 83 | 10YR7/6 明黄褐色粘質土に7.5YR5/6 明褐色粘質土が混じる<br>《第1主体部掘方》   |

第 22 図 2号墳埋葬主体部平・断面図





1	竹根 木根	19	7.5Y5/6 明褐色粘質土に10YR6/6 明黄褐色粘質土が混じる	63	7.5YR5/6 明褐色粘質土に10YR8/2 灰白色粘質土が混じる
2	表土	20	7.5YR5/6 明褐色粘質土	64	10YR5/6 黄褐色粘質土 《第2主体部掘方》
3	7.5YR6/6 橙色粗砂質土	21	7.5YR5/6 明褐色細砂質土に10YR6/4 にぶい黄橙色粘質土が混じる 《第2主体部埋土》	65	10YR6/6 明黄褐色粘質土に7.5YR5/6 明褐色粘質土が混じる 《第2主体部掘方》
4	7.5YR5/6 明黄褐色細砂質土	22	10YR5/6 黄褐色粘質土 《第2主体部木棺跡》	66	7.5YR5/6 明褐色粘質土に2.5Y6/8 明黄褐色粗砂質土が混じる 《地山》
5	10YR8/1 灰白色シルト	23	10YR6/4 にぶい黄橙色粘質土に7.5YR8/1 明褐色粘質土が混じる 《第2主体部木棺跡》	67	7.5YR5/6 明褐色粘質土に2.5Y7/8 黄色粘質土が混じる 《地山》
6	10YR8/1 灰白色シルトに7.5YR6/6 橙色粗砂質土が混じる	24	10YR6/6 明黄褐色粘質土 《第2主体部掘方》	68	2.5Y7/1 灰白色粘質土に10YR6/6 明黄褐色粘質土が混じる 《地山》
7	10YR6/2 灰黄褐色粗砂質土(5mm~3cm程の礫を10%含む)	25	10YR7/6 明黄褐色粗砂質土 《第2主体部掘方》	69	2.5Y7/2 灰黄色粘質土 《地山》
8	10YR6/2 灰黄褐色粘質土(5mm~1cm程の礫を1%含む)	26	10YR6/6 明黄褐色粗砂質土と7.5YR5/6 明褐色粘質土の混土 《第1主体部埋土》	70	10YR6/6 明黄褐色粘質土(φ3mm~3cm程の礫を1%含む)
9	7.5YR6/8 橙色粗砂質土	27	7.5YR5/6 明褐色粘質土に10YR7/8 黄褐色粘質土が混じる 《第1主体部埋土》	71	10YR6/8 明黄褐色粘質土に2.5Y8/1 灰白色粘質土が混じる 《地山》
10	10YR5/3 にぶい黄褐色粗砂質土	28	7.5YR5/6 明褐色粘質土に10YR7/4 にぶい黄褐色粘質土が混じる 《第1主体部埋土》	72	2.5Y8/1 灰白色細砂質土に7.5YR6/6 橙色粘質土が混じる 《地山》
11	10YR5/4 にぶい黄褐色細砂質土	29	10YR7/4 にぶい黄褐色粘質土に7.5YR5/6 明褐色粘質土が混じる 《第1主体部掘方》	73	10YR5/2 灰黄褐色粘質土(φ5mm~3.5cm程の礫を1%含む)
12	10YR6/6 明褐色粗砂質土	30	10YR7/6 明黄褐色粘質土に7.5YR5/6 明褐色粘質土が混じる 《第1主体部掘方》	74	10YR5/4 にぶい黄褐色細砂質土(φ5mm~3cm程の礫を1%含む)
13	10YR8/1 灰白色シルト	31	2.5Y6/8 明黄褐色粘質土 《盛土》	75	7.5YR6/8 橙色粗砂質土に10YR8/1 灰白色シルトが混じる 《地山》
14	7.5YR6/8 橙色細砂質土に10YR8/1 灰白色シルトが混じる	32	7.5YR5/6 明褐色粘質土に10YR6/6 明黄褐色粘質土が混じる 《盛土》	76	7.5YR6/8 橙色細砂質土に10YR8/1 灰白色シルトが混じる 《地山》
15	10YR8/1 灰白色シルト	33	7.5YR5/6 明褐色粘質土に10YR6/8 明黄褐色粘質土が混じる(φ5mm~3cm程の礫を1%含む) 《盛土》	77	10YR8/1 灰白色シルトに7.5YR6/8 橙色細砂質土が混じる 《地山》
16	10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土に7.5YR5/6 明褐色粘質土が混じる	34	10YR6/8 明黄褐色粘質土に10YR6/6 明黄褐色粘質土が混じる 《盛土》	78	7.5YR6/8 橙色細砂質土に10YR8/1 灰白色シルトが混じる 《地山》
17	10YR6/6 明黄褐色粘質土	35	7.5Y5/8 明黄褐色粗砂質土(φ5mm~1cm程の礫を10%含む) 《地山》	79	10YR8/1 灰白色シルトに10YR6/8 橙色細砂質土が混じる 《地山》
18	7.5Y5/6 明褐色粘質土に2.5Y8/8 黄褐色粘質土が混じる	36	2.5Y7/2 灰黄色粘質土に2.5Y7/8 黄色粘質土が混じる 《地山》	80	7.5YR5/6 明黄褐色粘質土に10YR8/2 灰白色粘質土が混じる 《第1主体部埋土》
				81	10YR7/8 明黄褐色粘質土に7.5YR5/6 明褐色粘質土が混じる 《第1主体部掘方》
				82	10YR7/6 明黄褐色粘質土に10YR7/4 にぶい黄褐色粘質土が混じる 《第1主体部掘方》
				83	10YR7/6 明黄褐色粘質土に7.5YR5/6 明褐色粘質土が混じる 《第1主体部掘方》
				84	2.5Y6/8 明黄褐色粘質土に7.5YR5/6 明褐色粘質土が混じる 《盛土》
				85	2.5Y8/1 灰白色粘質土に10YR6/8 明黄褐色粘質土が混じる 《地山》
				86	2.5Y8/1 灰白色粘質土に7.5YR6/6 橙色粗砂質土が混じる 《地山》
				87	7.5YR6/8 橙色粘質土に7.5YR6/6 橙色粗砂質土が混じる 《地山》
				88	2.5Y7/1 灰白色粘質土に10YR6/6 明黄褐色粘質土が混じる 《地山》
				89	7.5YR6/8 橙色粘質土に2.5Y7/2 灰黄色粘質土が混じる 《地山》
				37	2.5Y7/2 灰黄色粘質土に7.5YR6/6 橙色粗砂質土が混じる 《地山》
				38	2.5Y7/2 灰黄色粘質土 《地山》
				39	2.5Y7/2 灰黄色粘質土に2.5Y6/6 明黄褐色粘質土が混じる 《地山》
				40	10YR6/8 明黄褐色粗砂質土に10YR8/1 灰白色細砂質土が混じる 《地山》
				41	10YR7/6 明黄褐色粗砂質土 《盛土》
				42	7.5YR5/8 明褐色粗砂質土(φ3mm~1.5cm程の礫を5%含む) 《地山》
				43	2.5Y7/8 黄色粘質土に10YR6/8 明黄褐色粘質土が混じる(φ5mm~1.3cm程の礫を1%含む) 《地山》
				44	2.5Y6/8 明黄褐色粘質土に7.5YR5/6 明黄褐色粘質土が混じる 《盛土》
				45	10YR5/8 黄褐色粘質土に2.5Y7/1 灰白色粘質土が混じる 《地山》
				46	2.5Y8/1 灰白色粘質土に10YR6/8 明黄褐色粘質土が混じる 《地山》
				47	2.5Y8/1 灰白色粘質土に7.5YR6/6 橙色粗砂質土が混じる 《地山》
				48	10YR6/6 明黄褐色粘質土に7.5YR6/6 橙色粗砂質土が混じる 《地山》
				49	2.5YR7/2 灰黄色粘質土に10YR6/6 明黄褐色粘質土が混じる 《地山》
				50	10YR5/6 黄褐色細砂質土(φ5mm~3cm程の礫を10%含む)
				51	2.5Y5/4 黄褐色粘質土(φ5mm~1.5cm程の礫を2%含む)
				52	2.5Y6/4 にぶい黄褐色細砂質土
				53	10YR8/2 灰白色シルト
				54	10YR7/8 黄褐色粗砂質土に10YR8/1 灰白色シルトが混じる
				55	2.5Y5/6 黄褐色シルト(φ3~4cm程の礫を1%含む)
				56	5Y7/1 灰白色粘質土に2.5Y6/4 にぶい黄色シルトが混じる
				57	10YR5/6 黄褐色粗砂質土(φ4cm程の礫を1%含む)
				58	5Y8/1 灰白色細砂質土に2.5Y6/6 明黄褐色粗砂礫が混じる
				59	N8/0 灰白色粗砂礫に10YR5/8 黄褐色粗砂礫が混じる
				60	10YR6/6 明黄褐色粘質土(φ5mm~1.5cm程の礫を1%含む)
				61	10YR5/6 黄褐色粘質土
				62	7.5YR5/6 明褐色粘質土に10YR6/6 明黄褐色粘質土が混じる

第 23 図 2号墳土層断面図



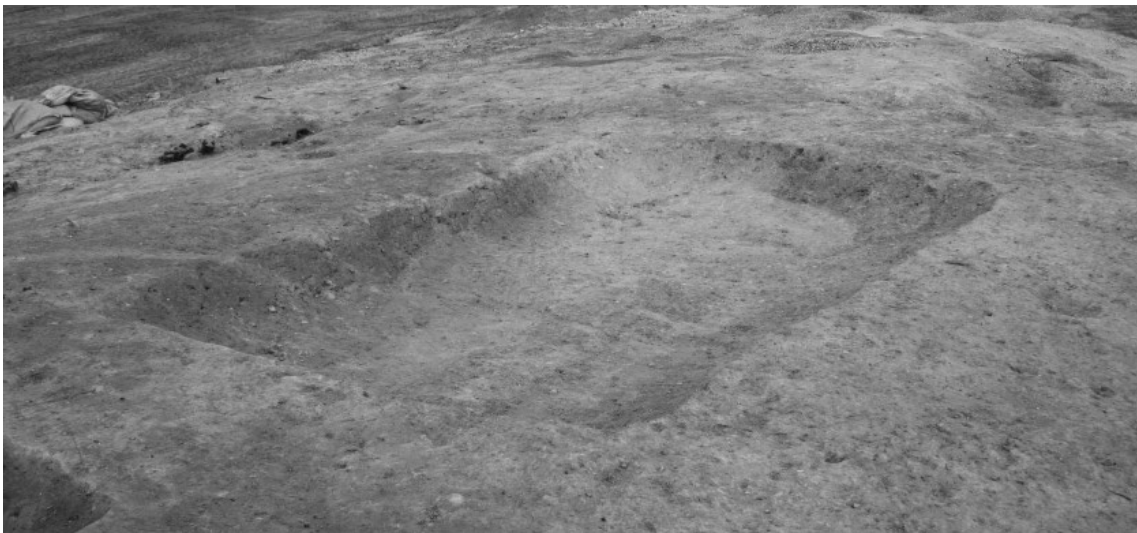
第 24 図 2号墳埋葬主体部木棺跡完掘状況（南東から）



第 25 図 2号墳埋葬主体部完掘状況（南東から）



第 26 図 2 号墳埋葬主体部木棺跡完掘状況（南西から）



第 27 図 2 号墳第 1 埋葬主体部完掘状況（西から）



第 28 図 2 号墳第 2 埋葬主体部完掘状況（西から）

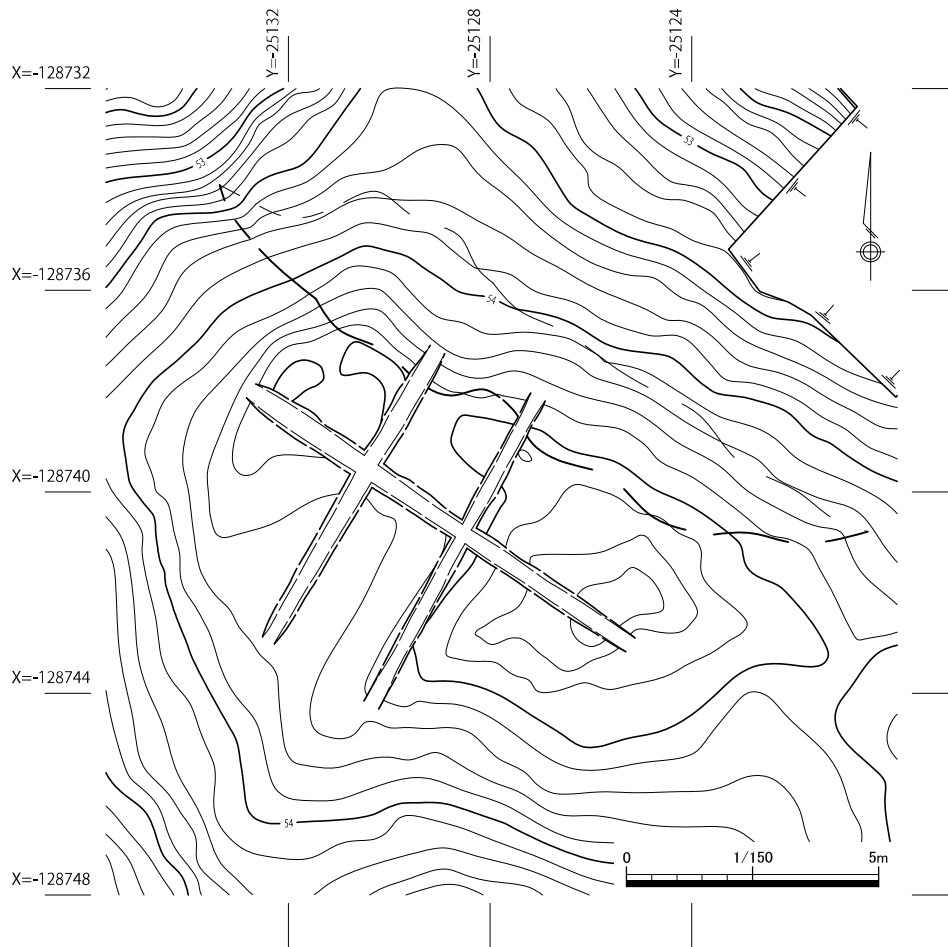


第 29 図 2号墳盛土掘削経過 1 (南から)



第 30 図 2号墳盛土掘削経過 2 (南から)





第 31 図 2 号墳地形測量図 (地山面)



第 32 図 2 号墳調査風景 (南から)



第 33 図 2 号墳調査後全景（北から）



第 34 図 2 号墳調査後遠景（南から）

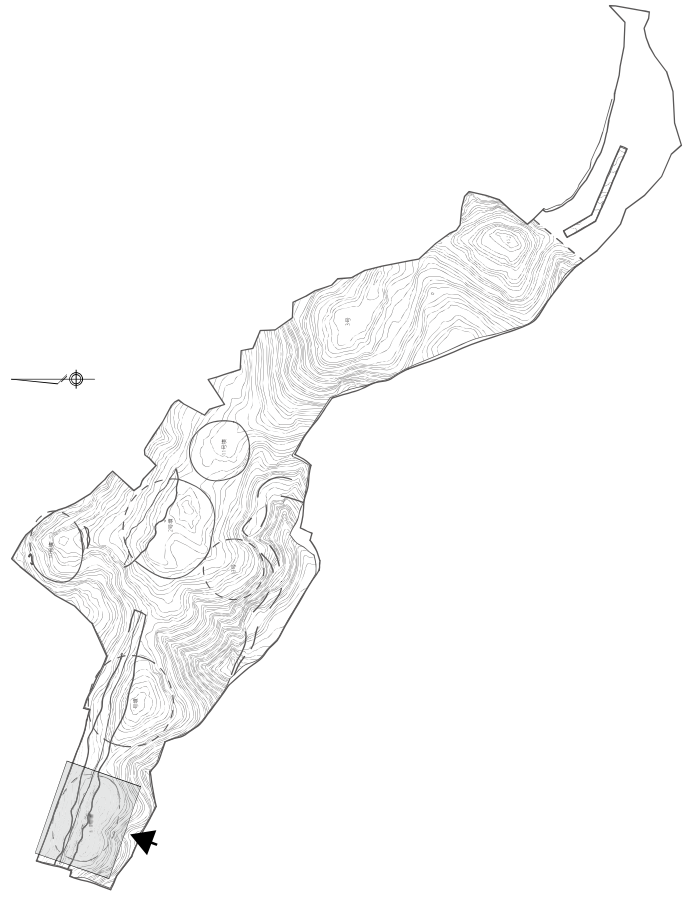
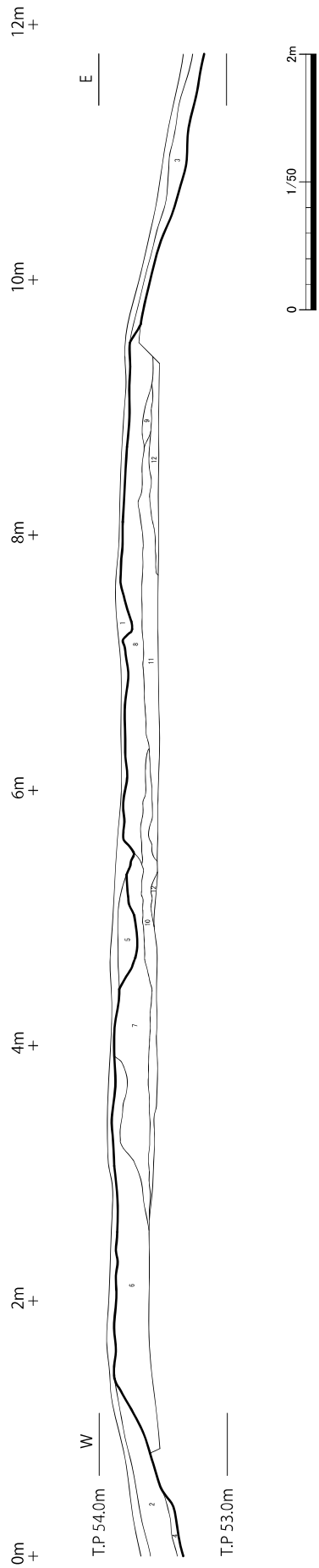
### 3) 8・9号墳

調査地の北西端、尾根が道路によって切られる南側に位置し、調査後の最高所は53.77mである。調査前の段階では8号墳と9号墳は別の古墳であると認識していた。しかし、表土掘削後の地形を観察したところ南側の谷状の部分は削平を受けたものであり、頂部でも両遺構の間に大きな落ち込みは無く平坦面が続いていることから、2基の古墳ではなく1基の古墳とした。

表土下はすぐに地山面を検出し、墳丘盛土は確認できなかった。中心を含め北側が削平されているため埋葬主体部があると考えられる部分は消失しており、区画溝も検出できなかった。しかし、北西側と南東側に墳丘基底部分とみられる傾斜変換線があり、これらを結びと楕円形が得られることから、そのラインを基底部分とした。墳丘基底部分の段は削り出されたものであり、頂部を平坦に削り、土を盛り墳丘としたものと理解し古墳であったと判断した。削平部分が大きいため規模は確定できないが、長径は推定11.5m、短径は推定8.3mの楕円形の古墳であったとみられる。遺物の出土はない。



第35図 8・9号墳地形測量図



- 1 表土
- 2 2.5Y8/1 灰白色粗砂礫 (φ3mm程の礫を含む)
- 3 10YR6/6 明黄褐色粗砂質土
- 4 礫層 (φ5cm程の石を含む)
- 5 2.5Y6/4 オリブ褐色粗砂質土 (φ6mm程の礫を3%含む)
- 6 2.5Y8/1 灰白色粘土 《地山》
- 7 2.5Y7/4 浅黄色粘土とN8/0 灰白色粘土 《地山》
- 8 10YR5/6 黄褐色粘質土 (2.5Y8/1 灰白色粗砂質土を若干含む) 《地山》
- 9 2.5Y7/4 にぶい黄褐色粗砂質土 《地山》
- 10 10YR6/6 明黄褐色粗砂質土と10YR7/3 にぶい黄褐色粗砂質土 《地山》
- 11 5Y8/1 灰白色粗砂質土と10YR5/6 黄褐色粗砂質土の互層 《地山》

第 36 図 8・9号墳東西土層断面図





第 37 図 8・9号墳調査前全景（西から）



第 38 図 8・9号墳調査風景（東から）



第 39 図 8・9号墳調査経過（東から）



第 40 図 1・8・9号墳調査後遠景（東から）

#### 4) 10号墳

10号墳は丘陵の突端部、2号墳の北側支尾根に位置する。調査後の最高所は53.2mである。長径9.6m、短径6.8mの楕円形の古墳である。支尾根筋に直行する形で存在する谷が2号墳との明確な境界線となっている。

それほど隆起していなかったため、盛土は全て流出していたと考えられた。しかし、表土掘削後に北側斜面にかけてのみ盛土が比較的良好に残っていることが確認できた。墳丘の盛土は地山を整形する際に得られた土を利用したと思われ、黄褐色系の土が利用されていた。

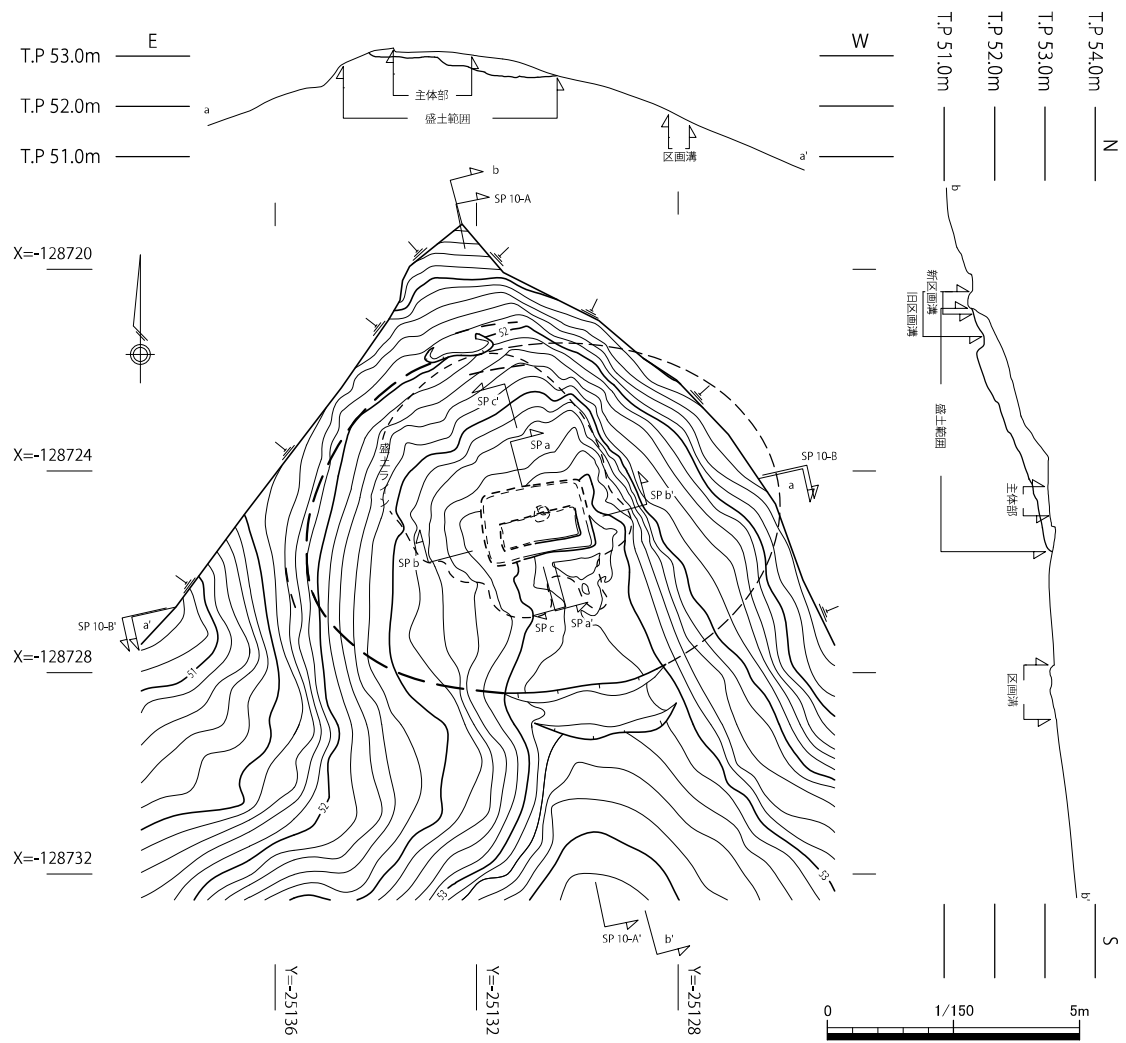
検出した墳丘盛土の上部は崩れていたが、中央で埋葬主体部を検出した。木棺直葬である。主軸は東西で墓坑掘方は長さ2.73m、幅1.4mである。木棺跡は長さ1.56m、幅0.56m、検出面から深さ0.15mである。地山面の高低差は大きく、頂部が平坦面が狭く埋葬するのに十分な面積が取れなかったため、斜面にも盛土をして墳丘を築造したと考えられる。その後に盛土を棺底部の下層のにぶい黄褐色シルトの上面まで掘り込み平坦にして木棺を埋葬している。盛土上部は締め固めが弱かったためか、流出が激しかったと考えられ、墓坑の検出は底面の残存部分だけであった。

また、区画溝が墳丘墳丘の南北と西側に残っていた。古墳を周回はしていないが、十字方向に小規模の溝を作ることによって墳丘築造の際の目印にしたと考えられる。南北は平面・土層共に主軸上に確認でき、南側の溝は幅約1mで、2号墳に続く尾根に直交する形で作られている。北斜面の溝は幅約0.5m、深さ約0.2mである。土層断面から当初南側の溝と同規模のものが作られていたが、築造途中で埋まったと考えられ、平面形で検出したものは築造を継続する為に作り直された溝とみられる。西緩斜面の残存幅0.4m程の溝は一部だけ残っていたのを土層断面でのみ確認できた。古墳東側は土砂流失や削平により残っていない。

墓坑を完掘したその下から、円形の用途不明の土壌を検出した。埋土は地山と同色の土だったため平面の検出は困難を期した。しかし、主軸方向の断ち割りから地山とは若干異なる質の土を確認した。使用用途や時代を確認できる遺物は出土しなかったが、古墳築造に際しての遺構と考えることもできるかもしれない。副葬品やその他の遺物は出土していない。



第41図 10号墳調査前遠景（東から）

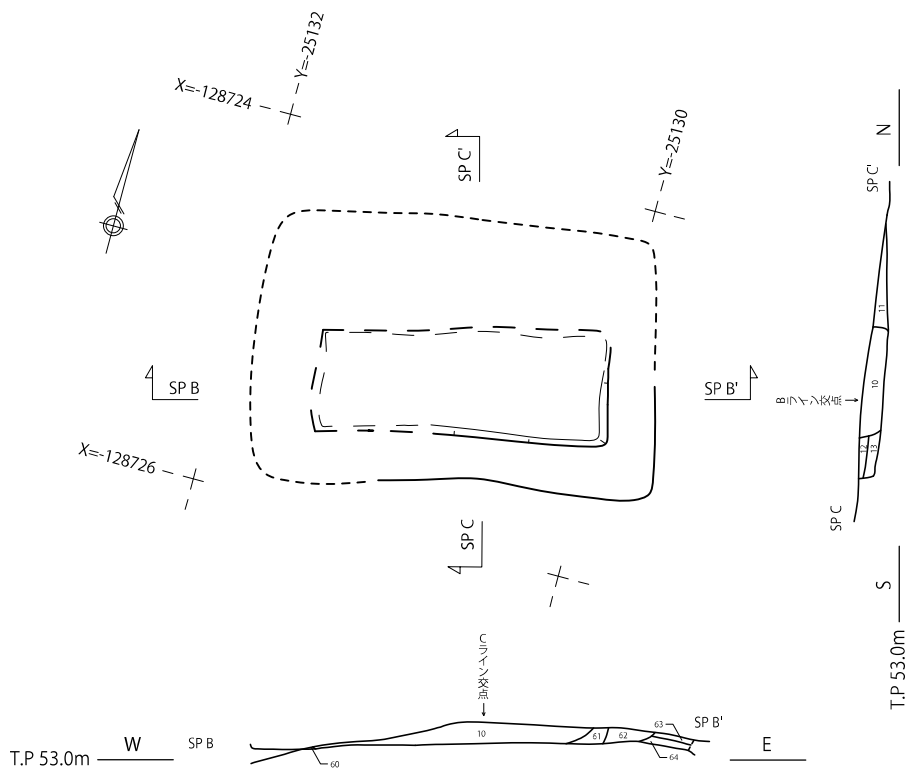


第 42 図 10号墳丘平・断面図

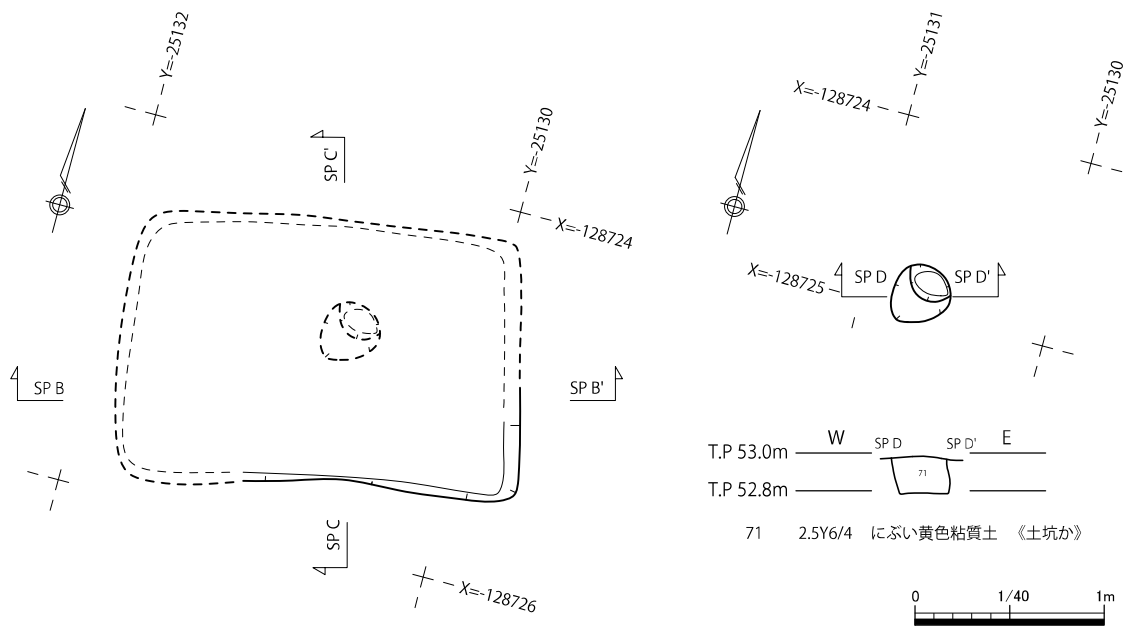


第 43 図 10号墳調査経過 (南から)

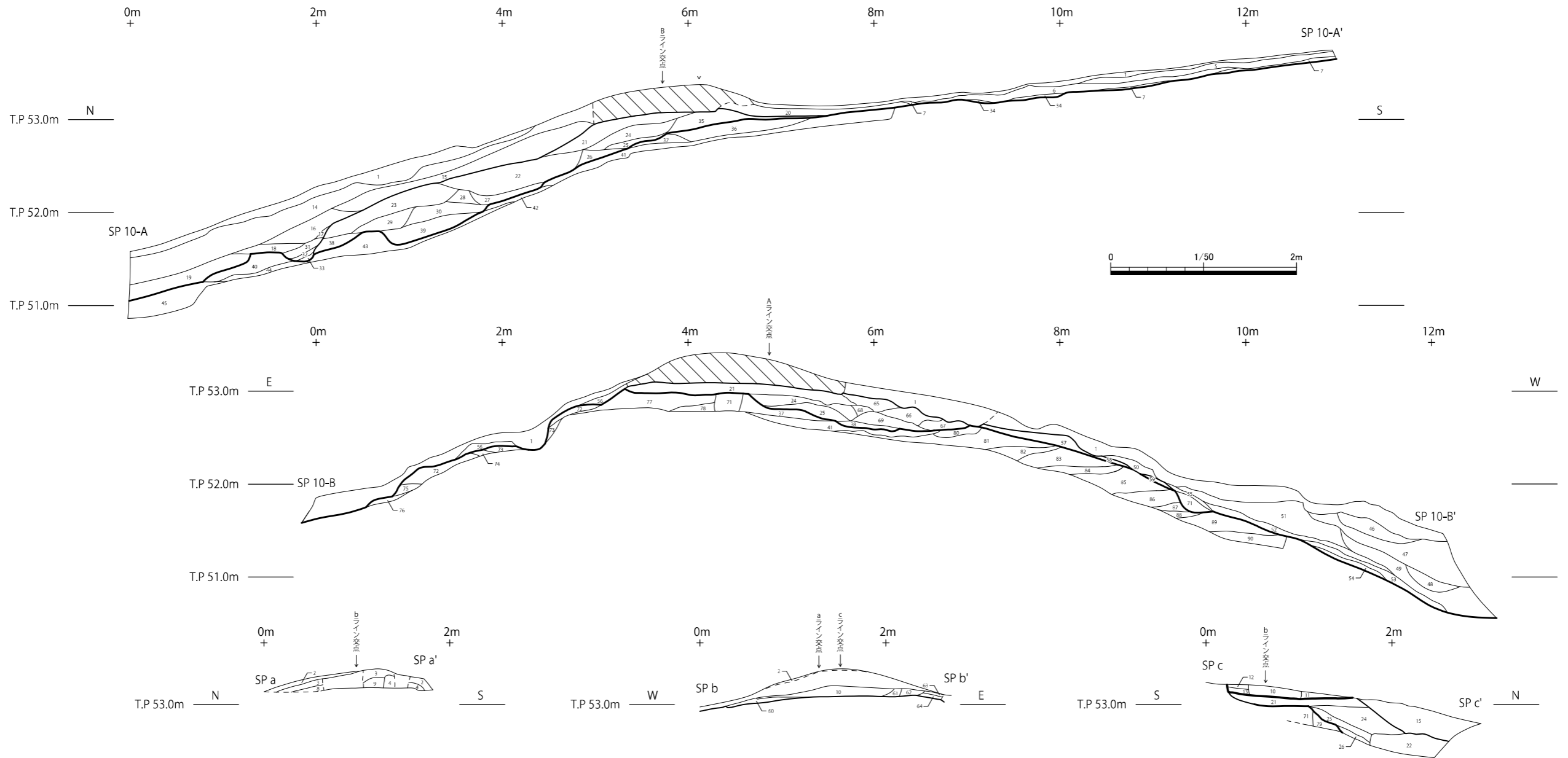




- 10 2.5Y7/3 浅黄色シルトと10YR6/8 明黄褐色シルト (礫若干含む) 《棺埋土》
- 11 2.5Y7/4 浅黄色シルト 《棺掘方埋土》
- 12 10YR5/8 黄褐色粗砂質土 《棺掘方埋土》
- 13 2.5Y5/6 黄褐色シルト (2.5Y8/1 灰白色粘質土を小ブロックで若干含む) 《棺掘方埋土》
- 60 2.5Y7/4 浅黄色シルト (5Y8/1 灰白色粘土を含む) 《盛土》
- 61 2.5Y6/4 にぶい黄色土 (7.5Y6/6 橙色土を若干含む)
- 62 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト 《掘方埋土》
- 63 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 (2.5Y8/1 灰白色粘質土を含む) 《盛土》
- 64 7.5YR5/8 明褐色シルト (2.5Y6/4にぶい黄色シルトを含む) 《盛土》



第 44 図 10号墳埋葬主体部平・断面図



- |    |          |  |         |                                 |                                      |         |                            |                                  |         |             |                                  |
|----|----------|--|---------|---------------------------------|--------------------------------------|---------|----------------------------|----------------------------------|---------|-------------|----------------------------------|
| 1  | 表土       | 26   | 2.5Y5/4 | 黄褐色粘質土(2.5Y8/1 灰白色粘質土を2%含む)《盛土》 | 51                                   | 10YR6/6 | 明黄褐色土(φ3~5cm程の礫を12%含む)《流土》 | 74                               | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色土《地山》 |                                  |
| 2  | 7.5Y2/1  | 黒色土  | 27      | 2.5Y6/4                         | にぶい黄色シルト(2.5Y8/1 灰白色粗砂質土を3%含む)《盛土》   | 52      | 2.5Y6/3                    | にぶい黄色シルト《流土》                     | 75      | 10YR6/8     | 明黄褐色粘土と2.5Y8/1 灰白色粘土《地山》         |
| 3  | 2.5Y7/3  | 浅黄色土   | 28      | 10YR7/4                         | にぶい黄橙色シルト《盛土》                        | 53      | 2.5Y7/2                    | 灰黄色粗砂質土(7.5YR5/8 明褐色粗砂質土を含む)《流土》 | 76      | 10YR6/8     | 明黄褐色粘土《地山》                       |
| 4  | 10YR7/6  | 明黄褐色細砂質土(2.5Y6/3 にぶい黄色細砂質土を含む)                 | 29      | 2.5Y7/3                         | 浅黄色粘質土(φ2cm程の礫を若干含む)《盛土》             | 54      | 2.5Y5/4                    | 黄褐色粗砂質土(φ1~3cm程の礫を若干含む)《流土》      | 77      | 10YR7/6     | 明黄褐色シルト(5Y8/1 灰白色粘質土を含む)《地山》     |
| 5  | 2.5Y5/4  | 黄褐色粗砂質土(φ2mm程の礫を若干含む)                          | 30      | 10YR7/6                         | 明黄褐色シルト《盛土》                          | 55      | 2.5Y6/4                    | にぶい黄橙色シルト《流土》                    | 78      | 2.5Y6/3     | にぶい黄色粘質土(2.5Y6/2 灰黄色粘質土を含む)《地山》  |
| 6  | 2.5Y4/2  | 暗灰黄色土  | 31      | 10YR7/6                         | 明黄褐色土(φ2~3cm程の礫を若干含む)《区画溝》           | 56      | 2.5Y6/6                    | 明黄褐色土《盛土》                        | 79      | 7.5YR5/8    | 明褐色粗砂質土(5Y7/1 灰白色粘質土を含む)《地山》     |
| 7  | 2.5Y4/1  | 黄灰色細砂質土と2.5Y7/4 浅黄色細砂質土と10YR7/6 明黄褐色細砂質土の互層    | 32      | 2.5Y6/2                         | 灰黄色土(φ2~3cm程の礫を15%含む)《区画溝》           | 57      | 2.5Y5/3                    | 黄褐色土(φ1cm程の礫を3%含む)《盛土》           | 80      | 10YR6/6     | 明黄褐色粗砂質土と5Y7/1 灰白色粘質土《地山》        |
| 8  | 2.5Y8/3  | 淡黄色細砂質土(φ2cm程の礫を2%含む)《棺掘方》                     | 33      | 2.5Y7/2                         | 灰黄色土(φ4cm程の礫を若干含む)《区画溝》              | 58      | 10YR5/4                    | にぶい黄褐色粗砂質土《盛土》                   | 81      | 7.5YR5/8    | 明褐色粗砂質土と5Y8/1 灰白色粘土の互層《地山》       |
| 9  | 10YR6/6  | 明黄褐色細砂質土(2.5Y5/2 暗灰黄色細砂質土を含む)《棺掘方》             | 34      | 2.5Y5/4                         | 黄褐色粗砂質土《区画溝》                         | 59      | 10YR6/4                    | にぶい黄色シルト《盛土》                     | 82      | 2.5Y8/1     | 灰白色粘土と10YR7/6 明黄褐色粘土《地山》         |
| 10 | 2.5Y7/3  | 浅黄色シルトと10YR6/8 明黄褐色シルト(礫を若干含む)《棺埋土》            | 35      | 2.5Y5/4                         | 黄褐色粘質土(7.5YR5/8 明褐色シルトを3%含む)《盛土》     | 60      | 2.5Y7/4                    | 浅黄色シルト(5Y8/1 灰白色粘土を含む)《盛土》       | 83      | 5Y8/1       | 灰白色粘土《地山》                        |
| 11 | 2.5Y7/4  | 浅黄色シルト《棺掘方埋土》                                  | 36      | 2.5Y7/3                         | 浅黄色粘土《盛土》                            | 61      | 2.5Y6/4                    | にぶい黄色土(7.5Y6/6 橙色土を若干含む)《棺埋土》    | 84      | 10YR5/8     | 黄褐色粘土(5Y8/1 灰白色粘土を含む)《地山》        |
| 12 | 10YR5/8  | 黄褐色粗砂質土《棺掘方埋土》                                 | 37      | 10YR6/8                         | 明黄褐色粘質土と5Y7/1 灰白色粘質土《盛土》             | 62      | 2.5Y6/4                    | にぶい黄色シルト《掘方埋土》                   | 85      | 7.5Y8/1     | 灰白色シルト《地山》                       |
| 13 | 2.5Y5/6  | 黄褐色シルト(2.5Y8/1 灰白色粘質土を小ブロックで若干含む)《棺掘方埋土》       | 38      | 2.5Y7/2                         | 灰黄色粘質土(2.5Y6/4 にぶい黄色粘質土を5%含む)《盛土》    | 63      | 2.5Y6/2                    | 灰黄色粘質土(2.5Y8/1 灰白色粘質土を含む)《盛土》    | 86      | 7.5Y8/1     | 灰白色シルトと10YR6/8 明黄褐色シルトの互層《地山》    |
| 14 | 2.5Y5/3  | 黄褐色土(φ5cm程の礫を2%含む)《流土》                         | 39      | 2.5Y6/4                         | にぶい黄色粘質土(10YR7/6 明黄褐色シルトを10%含む)《盛土》  | 64      | 7.5YR5/8                   | 明褐色シルト(2.5Y6/4 にぶい黄色シルトを含む)《盛土》  | 87      | 2.5Y7/2     | 灰黄色シルト《地山》                       |
| 15 | 2.5Y7/3  | 浅黄色シルト《流土》                                     | 40      | 2.5Y6/4                         | にぶい黄色粘土と2.5Y8/1 灰白色粘土《地山》            | 65      | 10YR5/8                    | 黄褐色土                             | 88      | 5Y8/1       | 灰白色粗砂質土《地山》                      |
| 16 | 2.5Y6/3  | にぶい黄色土(φ1~3cm程の礫を3%含む)《流土》                     | 41      | 7.5YR5/8                        | 明褐色粗砂質土と5Y8/1 灰白色シルトが混ざる《地山》         | 66      | 7.5Y5/6                    | 明褐色粘質土と2.5Y6/4 にぶい黄色粘質土《盛土》      | 89      | 5Y8/1       | 灰白色シルト(2.5Y8/2 灰白色粗砂質土を含む)《地山》   |
| 17 | 2.5Y7/3  | 浅黄色土《1番目の流土》                                   | 42      | 2.5Y6/4                         | にぶい黄色粗砂質土(10YR6/8 明黄褐色粗砂質土を若干含む)《地山》 | 67      | 2.5Y7/4                    | 浅黄色粘質土と10YR6/6 明黄褐色粘質土《盛土》       | 90      | 10YR7/6     | 明黄褐色粗砂質土と2.5Y8/1 灰白色粗砂質土の互層《地山》  |
| 18 | 2.5Y5/3  | 黄褐色土(φ1cm程の礫を若干含む)《盛土》                         | 43      | 5Y8/1                           | 灰白色粘土(2.5Y8/2 灰白色粘土を含む)《地山》          | 68      | 10YR6/8                    | 明黄褐色土(5Y8/1 灰白色土を含む)《盛土》         | 91      | 10YR6/6     | 明黄褐色土                            |
| 19 | 2.5Y6/4  | にぶい黄色シルト(φ2cm程の礫を2%含む)《流土》                     | 44      | 2.5Y8/1                         | 灰白色粘土と10YR8/6 黄橙色シルト《地山》             | 69      | 10YR7/6                    | 明黄褐色シルト                          | 92      | 10YR5/3     | にぶい黄褐色土                          |
| 20 | 10YR4/2  | 灰黄褐色土《盛土》                                      | 45      | 2.5Y5/4                         | 黄褐色粗砂質土(2.5Y6/8 明黄褐色土を若干含む)《地山》      | 70      | 2.5Y4/3                    | オリーブ褐色粘質土《区画溝》                   | 93      | N8/1        | 灰白色粘土《地山》                        |
| 21 | 2.5Y6/3  | にぶい黄色シルト《盛土》                                   | 46      | 10YR6/8                         | 明黄褐色土《流土》                            | 71      | 2.5Y6/4                    | にぶい黄色粘質土《土坑か》                    | 94      | 2.5Y6/4     | にぶい黄色土(φ2~5cm程の礫を3%含む)           |
| 22 | 2.5Y8/1  | 灰白色砂礫と2.5Y7/4 浅黄褐色粗砂質土《盛土》                     | 47      | 2.5Y6/6                         | 明黄褐色土《流土》                            | 72      | 2.5Y8/1                    | 灰白色粘土《地山》                        | 95      | 2.5Y7/6     | 明黄褐色土                            |
| 23 | 2.5Y5/3  | 黄褐色粘質土(2.5Y8/2 灰白色粘質土を20%, φ1~3cm程の礫を1%含む)《盛土》 | 48      | 2.5Y6/4                         | にぶい黄色土(φ1~2cm程の礫を若干含む)《流土》           | 73      | 10YR7/6                    | 明黄褐色細砂質土《地山》                     | 96      | 5Y8/1       | 灰白色粗砂質土(7.5YR5/8 明褐色細砂質土を含む)《地山》 |
| 24 | 7.5YR6/8 | 橙シルト(5Y8/1 灰白色粘質土を含む)《盛土》                      | 49      | 10YR6/4                         | にぶい黄褐色粗砂質土(φ3cm程の礫を2%含む)《流土》         |         |                            |                                  |         |             |                                  |
| 25 | 2.5Y5/4  | 黄褐色粘質土《盛土》                                     | 50      | 10YR8/4                         | 浅黄褐色土(φ2cm程の礫を2%含む)                  |         |                            |                                  |         |             |                                  |

第 45 図 10号墳土層断面図



第 46 図 10号墳調査風景(南東から)



第 47 図 10号墳埋葬主体部木棺跡完掘状況(南から)



第 48 図 10号墳埋葬主体部完掘状況（南から）



第 49 図 10号墳南側区画溝（南から）

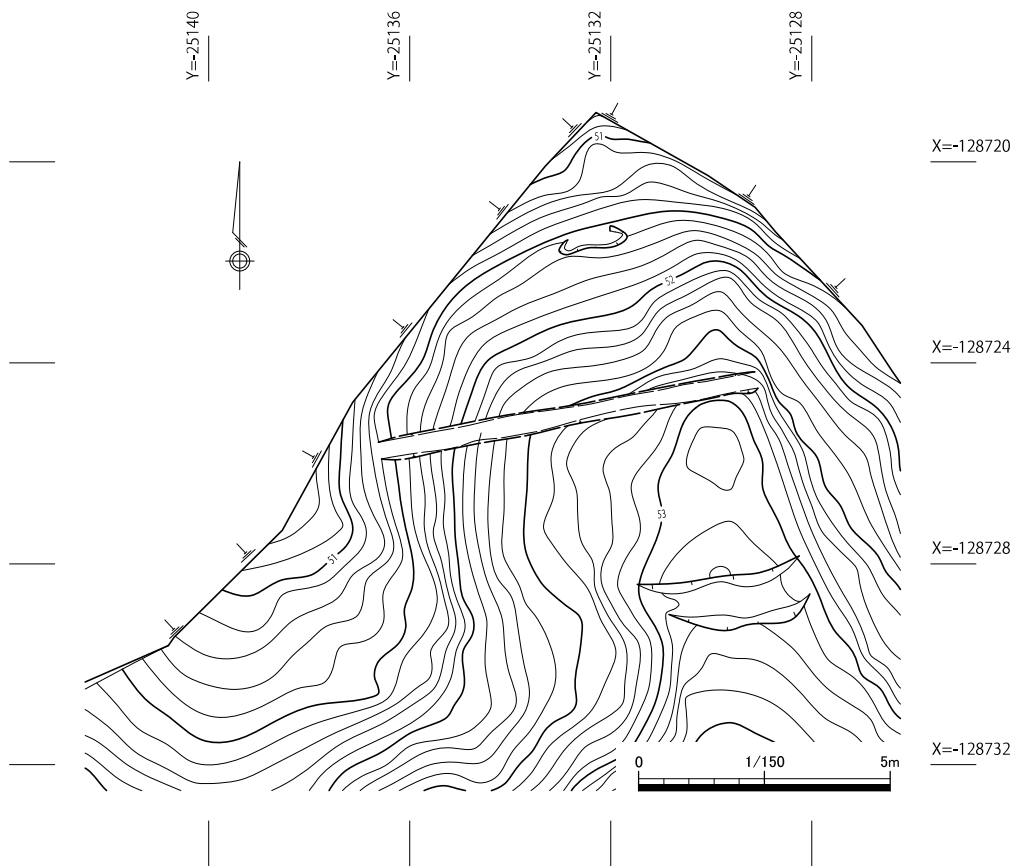




第 50 図 10号墳土壙完掘状況(南から)



第 51 図 10号墳調査後全景(南西から)



第 52 図 10号墳地形測量図(地山面)



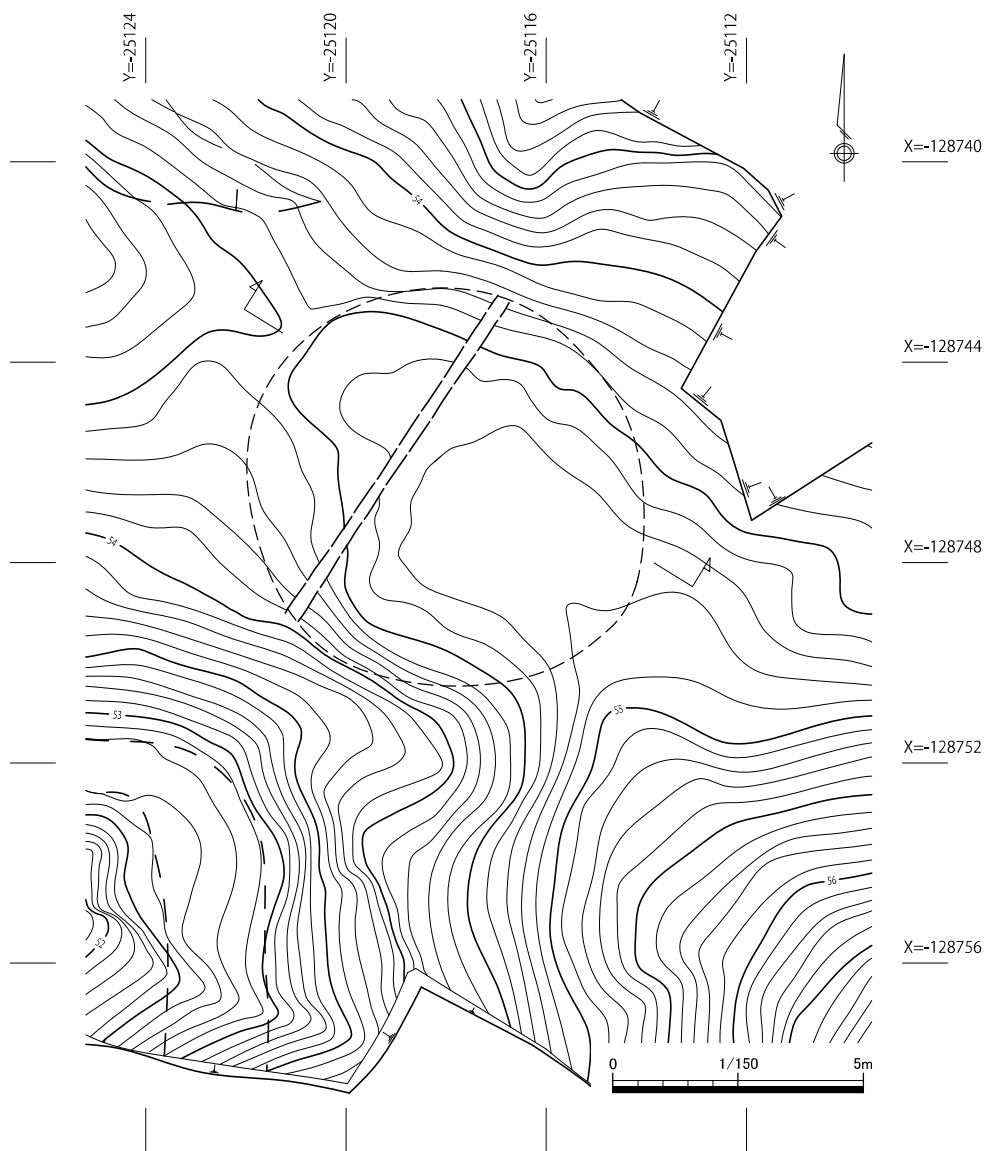
第 53 図 10号墳調査後遠景(南から)

## 5) 11号墳

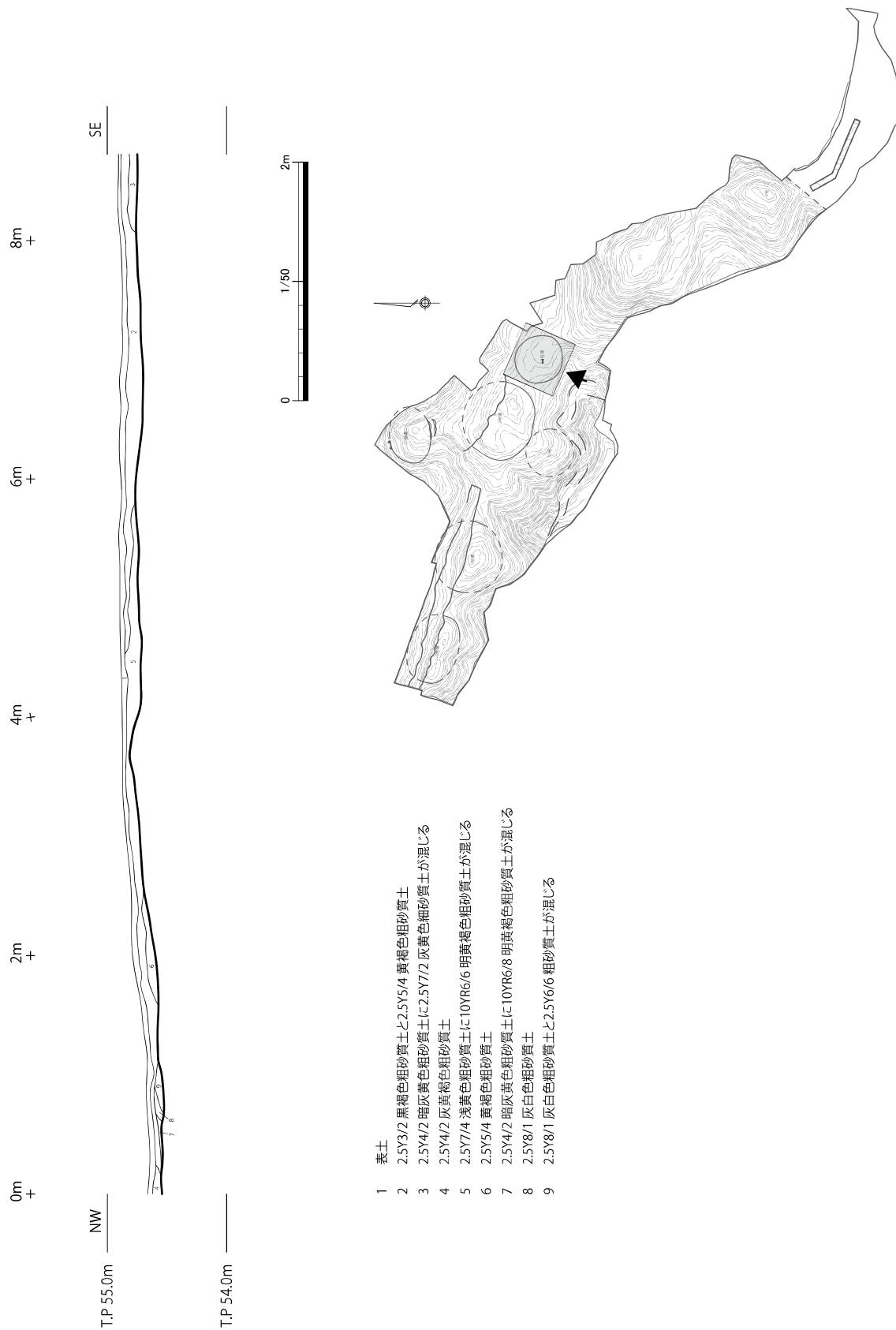
2号墳の東側に続く平坦面に位置している。隆起がなく、墳丘盛土はすでに削平もしくは流出していると判断できた。調査後の最高所はほぼ中央で54.76mである。表土、自然堆積土下はすぐに地山面が現れたため、やはり墳丘は消失していたと確認でき、埋葬主体部や区画溝の痕跡すら検出できなかった。

しかし、調査を進めた段階で、南側は削平されていたが、2号墳と隣接する北西側から北側にかけて墳丘基底部とみられる傾斜変換線が確認できた。南東側にはそのような傾斜変換はないため斜面裾との境を自然地形のまま利用したと考えられる。そこから続く地形を8・9号墳と同様に削り墳丘基底部としたとみられたため古墳と認識した。

削平や竹の根等による攪乱で規模は明確ではないが直径は8m程の円墳であったと推定した。遺物の出土はない。



第54図 11号墳地形測量図



第 55 図 11号墳東西土層断面図





第 56 図 2号墳 (手前) 11号墳 (奥) 調査経過遠景 (北西から)



第 57 図 11号墳調査風景 (東から)



第 58 図 11号墳調査後全景（南から）

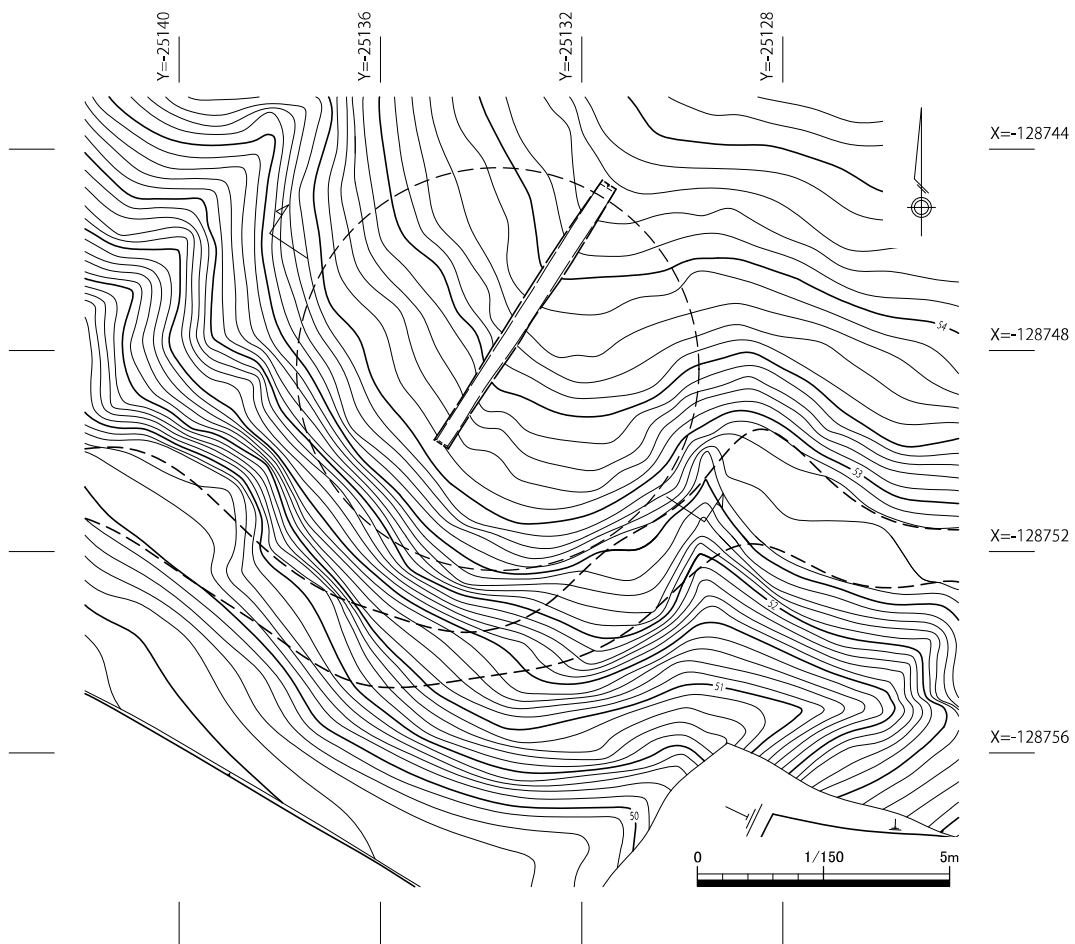


第 59 図 11号墳調査後遠景（東から）

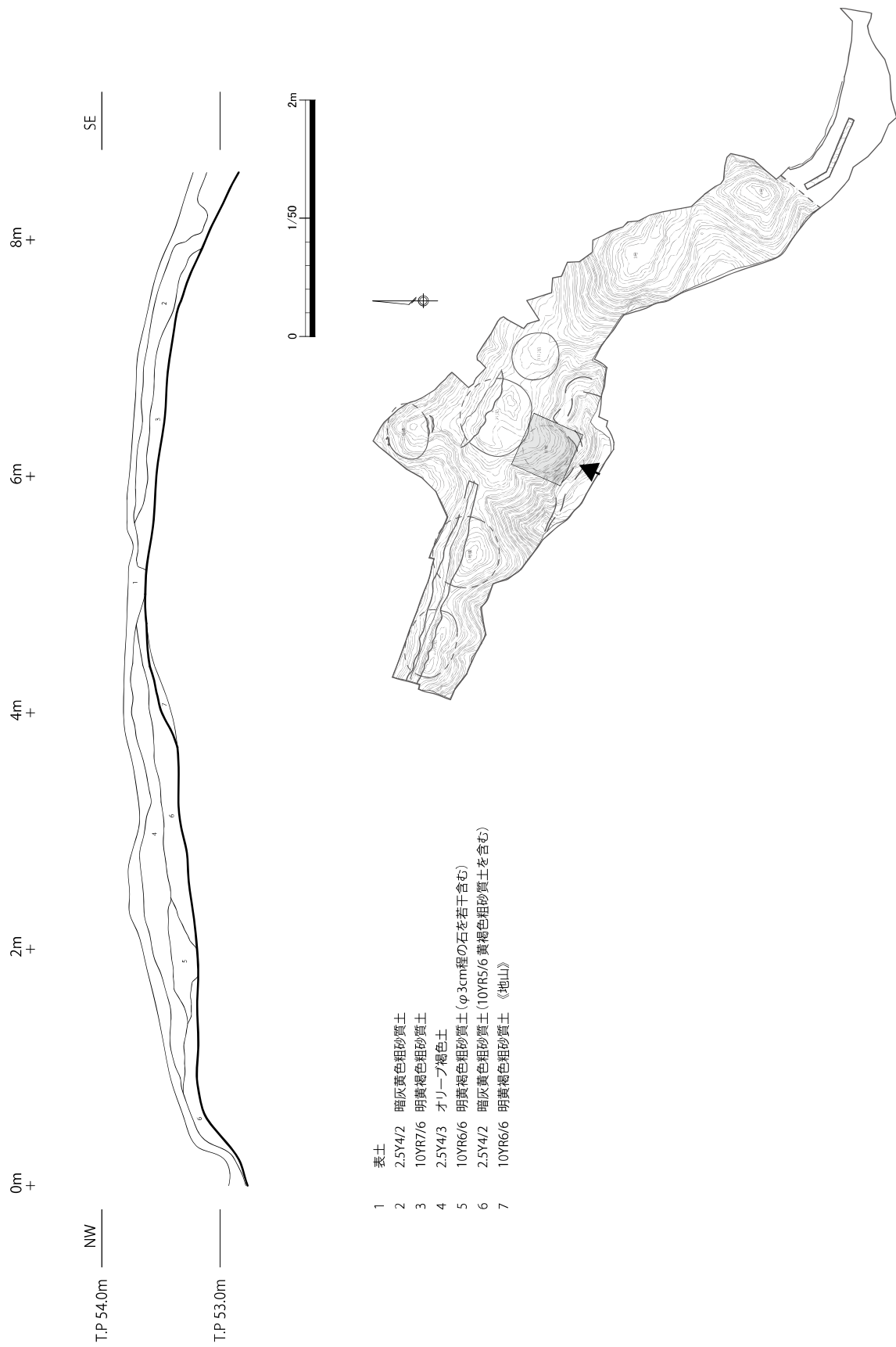
## 6) 13号墳

2号墳南西で、北西と南東に谷があり尾根が膨らむ場所に位置している。西側から南東にかけては山道を造作するために削平されていた。また頂部分も木の根によって攪乱されていた。表土下はすぐに地山で、平坦面はなく2号墳南西側からの傾斜が続く。墳丘盛土はなく、埋葬主体部や区画溝の痕跡も検出できなかった。中央にあたると見られる部分は木の根により攪乱されていたため、埋葬主体部の痕跡が残存していた場合でも、おそらく破壊されていたとみられる。また、基底部の痕跡もなかった。

そのため、自然地形かとも考えられるが、直径8m程度の円墳を築造する広さはあり、北側の10号墳が築造された地形とやや似ていることもあって古墳があったという可能性は考えられる。



第 60 図 13号墳地形測量図



第 61 図 13号墳北西南東土層断面図





第 62 図 13 号墳調査前遠景（東から）



第 63 図 13 号墳調査風景（西から）



第 64 図 13 号墳調査経過(東から)



第 65 図 13 号墳調査後遠景(東から)

## 7) 自然地形、その他

### 3号地点

3号は一段高くなった尾根筋上に位置する。調査後の最高所は59.53mである。表土下は自然堆積土で、すぐに地山面を検出した。墳丘盛土や区画溝は確認できなかった。東側は竹林造成時に尾根に沿って削平されていたが、それ以外の人工的な地形の改変は認められなかった。また、墳丘裾の痕跡も確認できなかったため、古墳ではなく自然地形と判断した。

### 4号地点

4号は調査区内でもっとも尾根筋上の南に位置し、調査後の最高所は60.78mである。表土下は自然堆積土ですぐに地山面を検出した。北側は竹林造成で地形が改変されていた。全体的に灰白色系砂質土だが、北側は赤味の黄褐色系シルトだった。3号と同様の理由から自然地形と判断した。

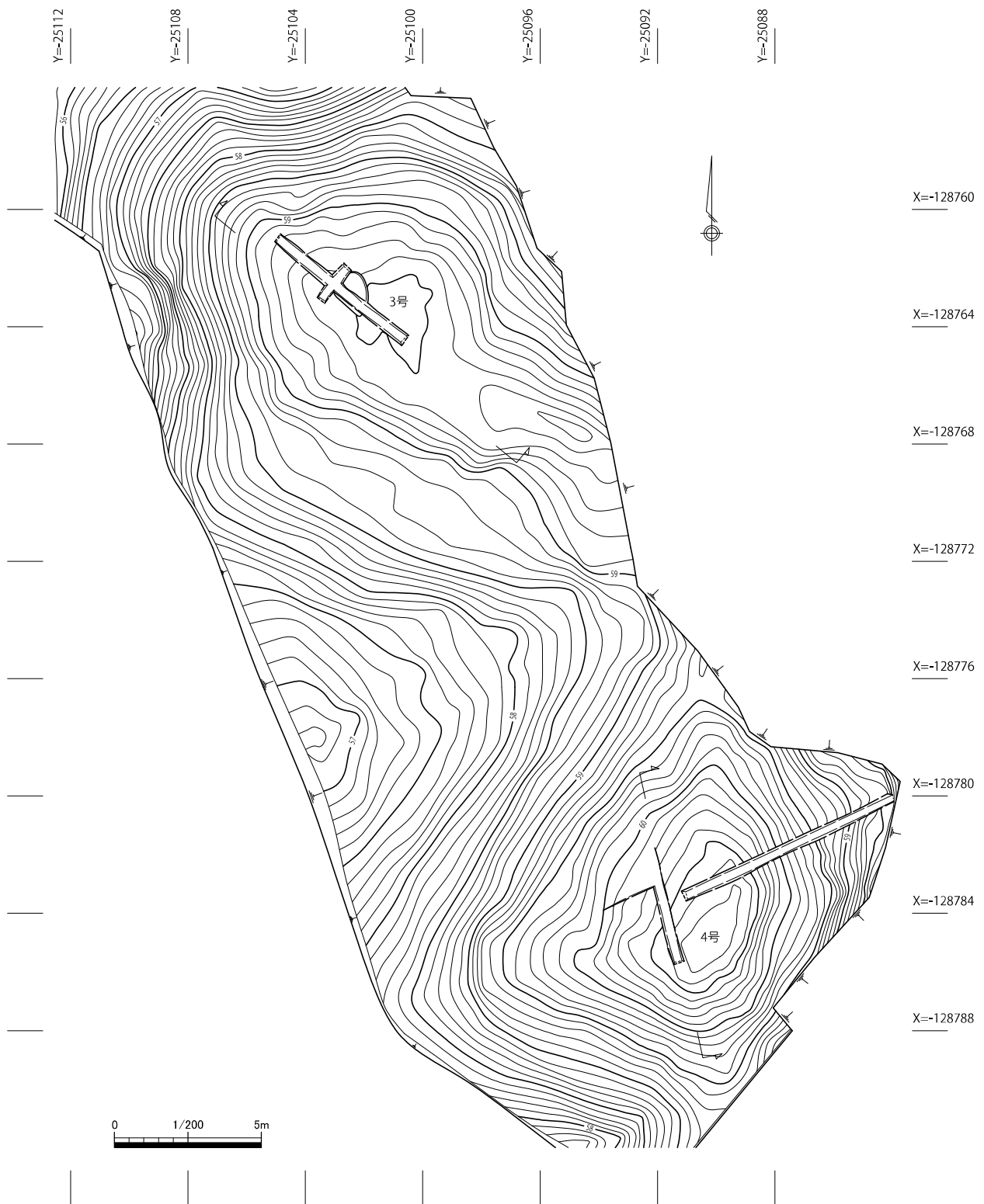
また、3・4号地点間には尾根筋に直行する形で谷が存在した。表土から地山まで、一番深い所で約1.6mあった。20～40cmの間でやや赤味を帯びた黄褐色粘質土が平行に、最下層は暗い黄褐色系粗砂質土で堆積している。地山は粗砂質土か白灰色粘土が基本であり、赤味を帯びた粘質土は他から持ち込まれた土と思われる。それらのことから平行に堆積していることと粘質土であることから竹林造成に伴う土入れと判断した。



第66図 3・4号地点調査前全景（西から）

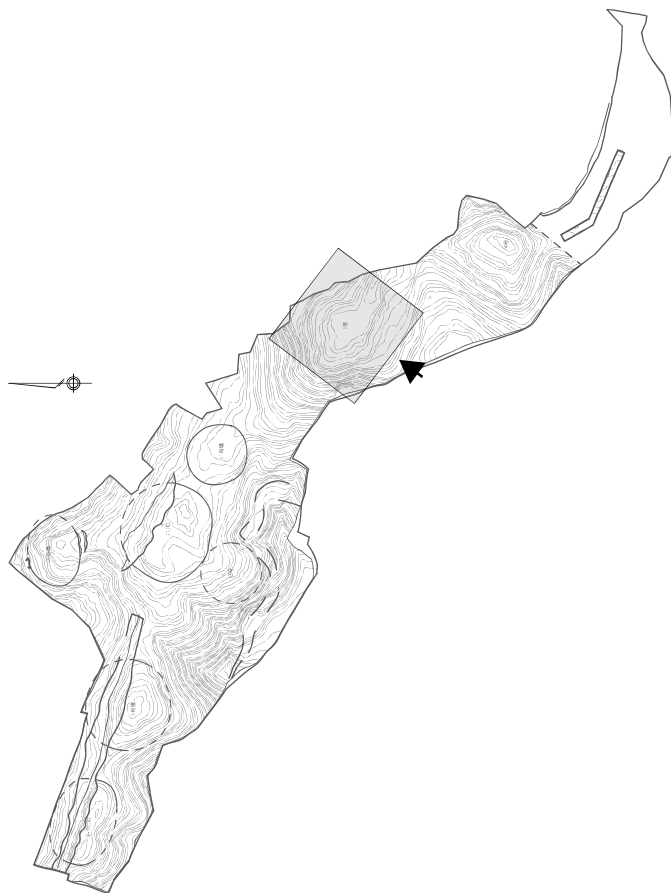
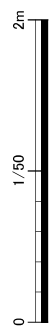
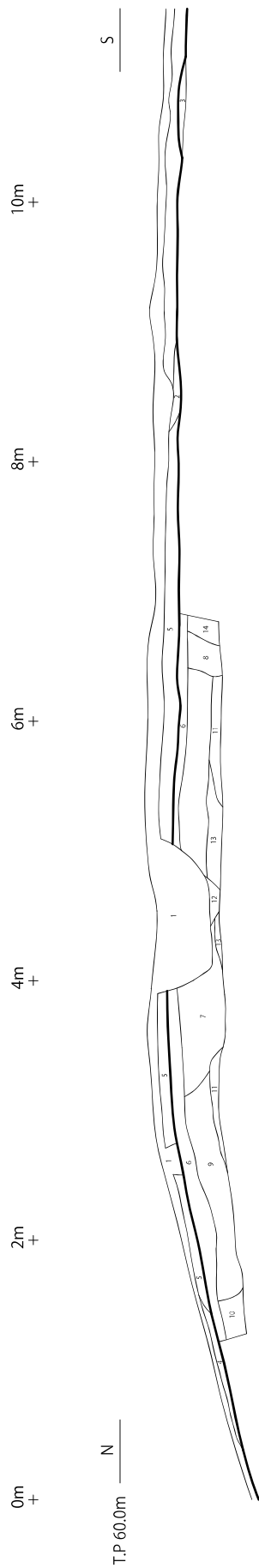


第67図 3・4号地点調査風景（北から）



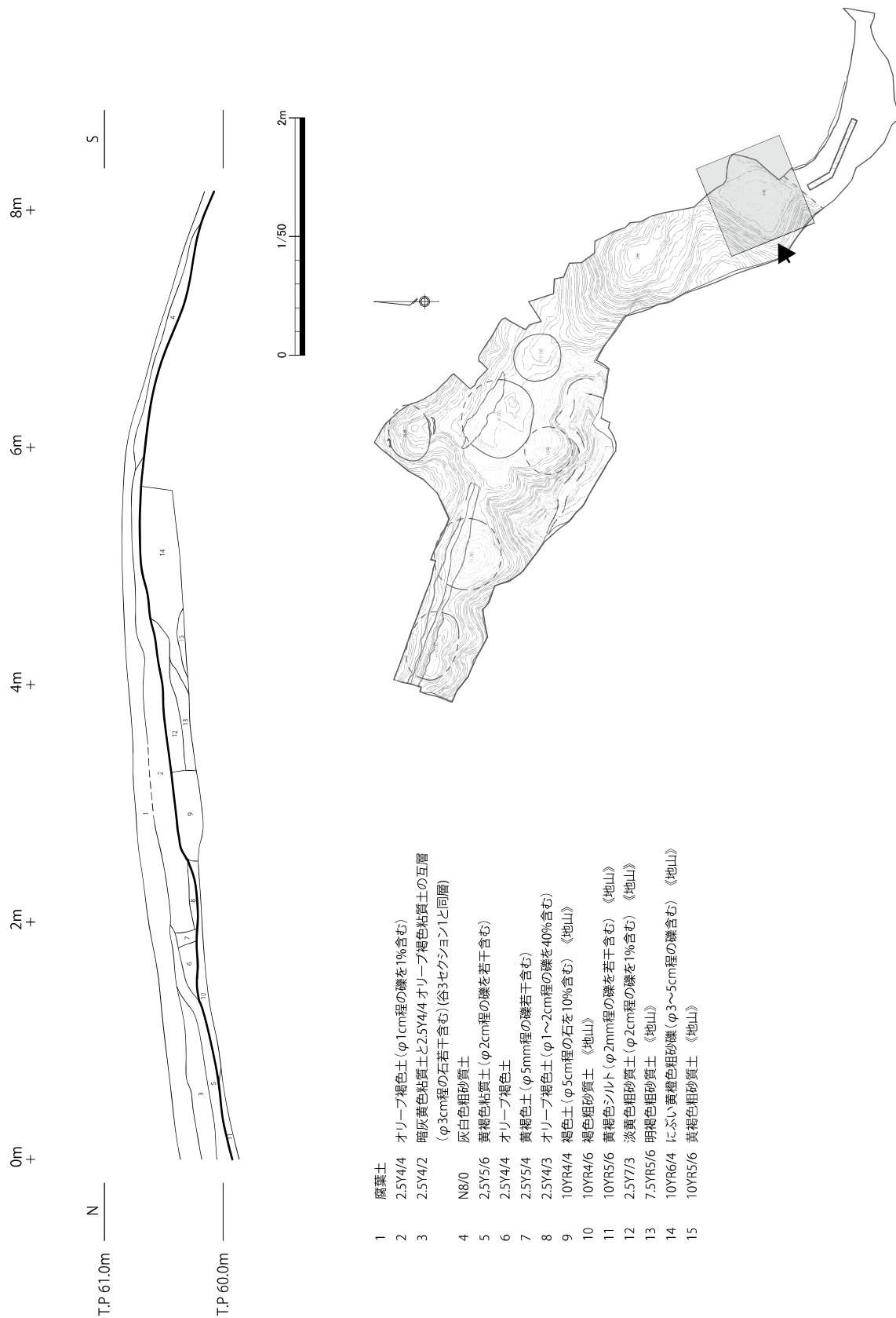
第 68 图 3·4 号地点地形测量图





- 1 表土
- 2 2.5Y5/4 黄褐色土 (φ 2cm程の礫を10%含む)
- 3 7.5YR5/6 明褐色粗砂礫土
- 4 10YR6/6 明黄褐色土と7.5YR5/6 明黄褐色粗砂質土
- 5 2.5Y5/4 黄褐色砂礫
- 6 2.5Y5/4 黄褐色粗砂質土 (φ 2~3cm程の礫を3%含む) 《地山》
- 7 10YR5/6 黄褐色粗砂礫 (φ 2cm程の礫を含む) 《地山》
- 8 2.5Y5/4 黄褐色粗砂礫 (φ 2cm程の礫を含む) 《地山》
- 9 7.5YR5/6 明褐色粗砂礫 (φ 3mm~2cm程の礫を含む) 《地山》
- 10 7.5Y4/6 褐色粗砂質土 《地山》
- 11 7.5Y5/6 明褐色粗砂質土 《地山》
- 12 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂質土 《地山》
- 13 2.5Y5/4 黄褐色粗砂質土 (φ 5mm程の礫を15%含む) 《地山》
- 14 7.5YR5/6 明褐色粗砂礫土 (φ 3mm~2cm程の礫を含む) 《地山》

第 69 図 3号地点南北土層断面図



第70図 4号地点南北土層断面図



第 71 図 3・4号地点谷調査風景（北西から）



第 72 図 3・4号地点調査後全景（南東から）



第 73 図 3号地点調査後全景（南東から）



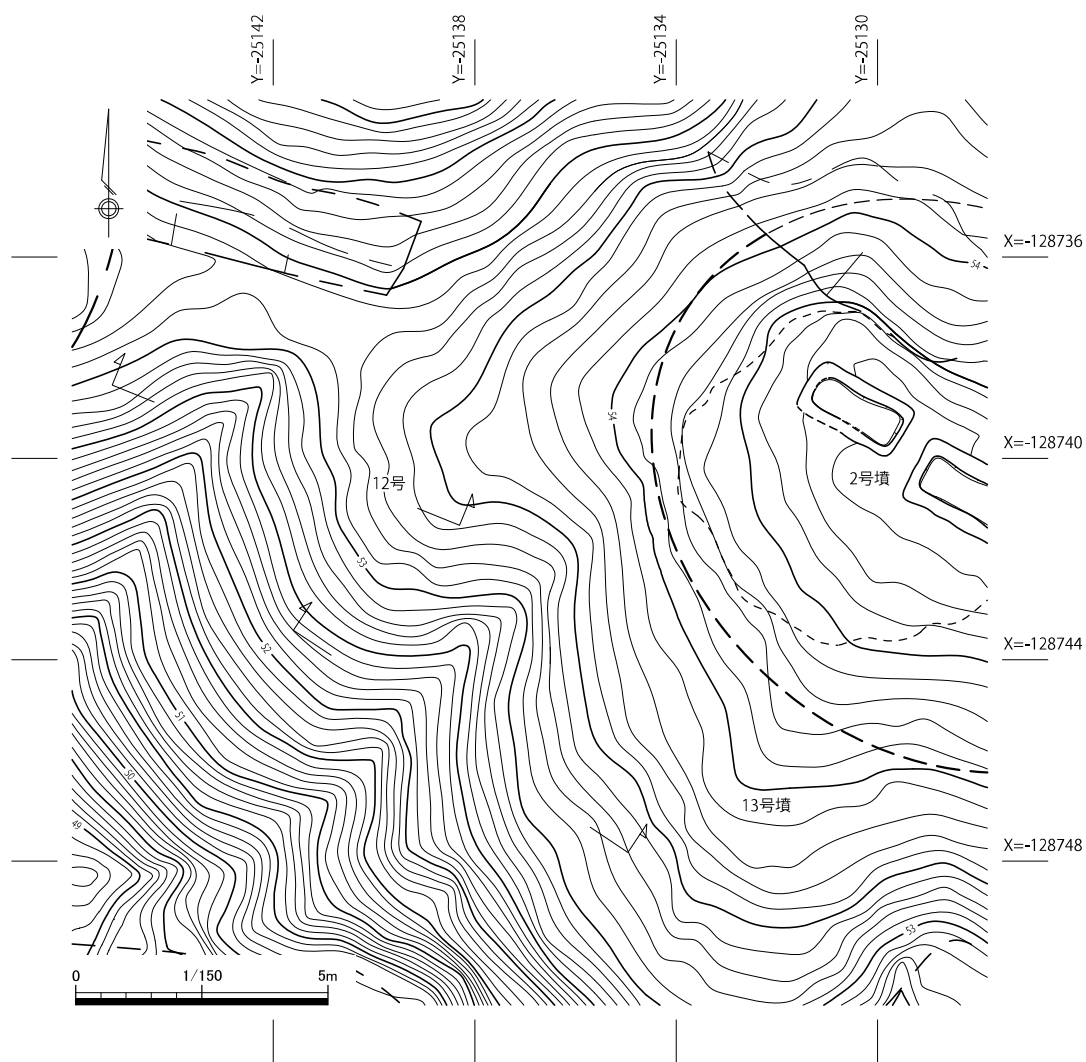
第 74 図 4号地点調査後全景（南東から）



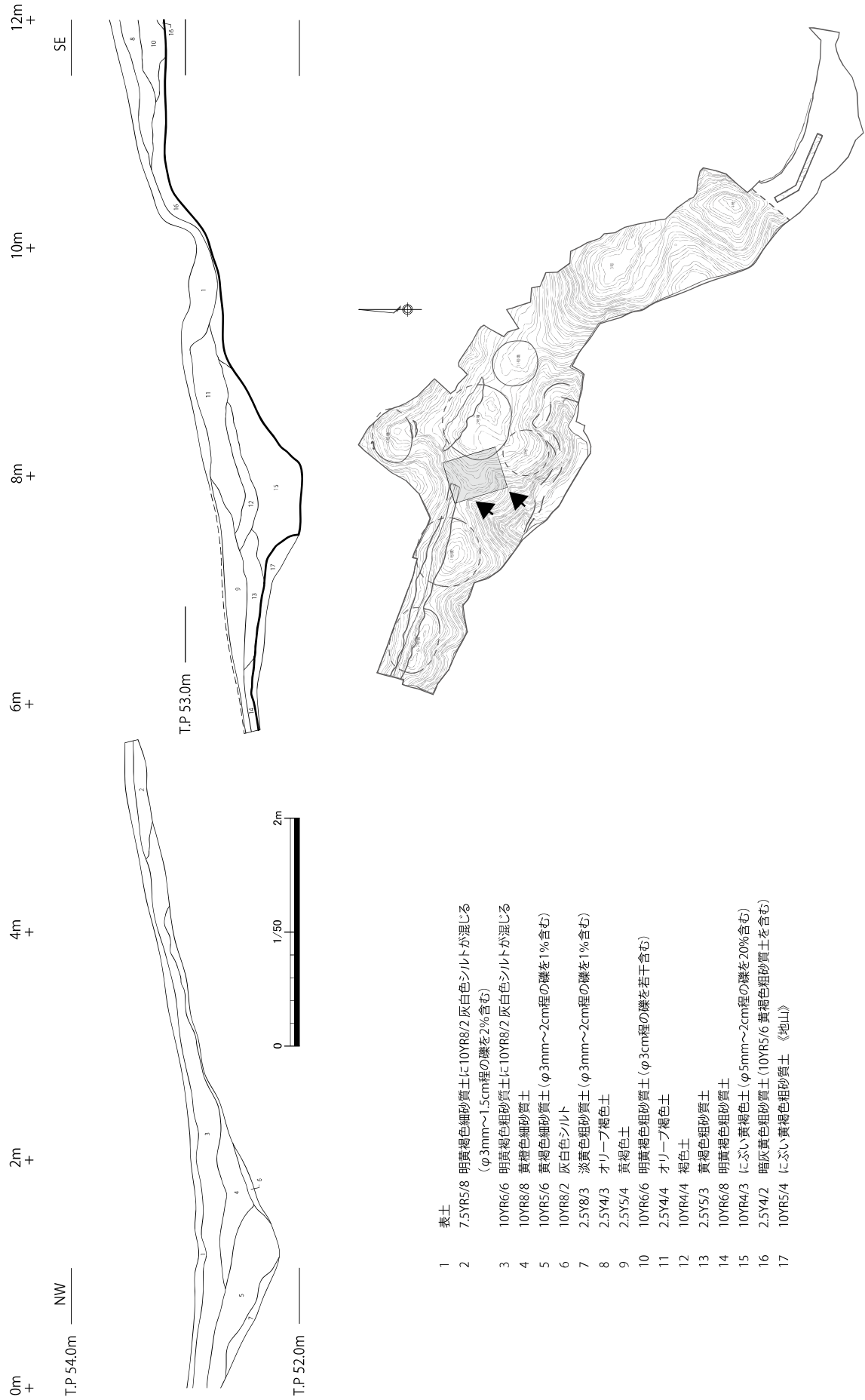
## 12号地点

1号墳と2号墳との間にある谷部分に張り出す形で位置している。

調査前の地形からも墳丘は認識できなかった。表土下は自然堆積土で、その下はすぐ地山面であった。他の古墳と判断したものと同様な状況であったが墳丘基底部の痕跡も確認できなかった。また東側に位置する2号墳と近接しすぎており、墳丘範囲を想定しても他に比べかなり小さいものとなる。それで、自然地形であり、単に尾根が谷部に向かって張り出した部分と判断した。



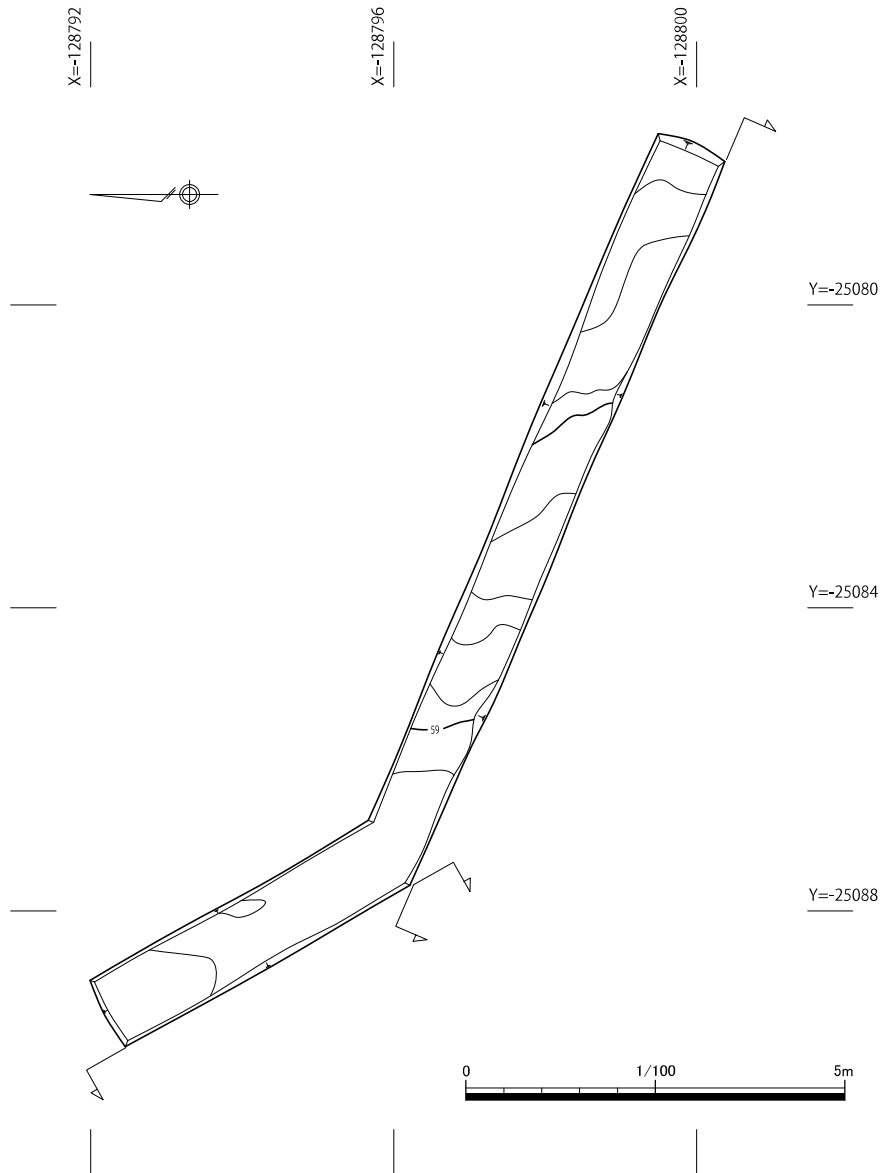
第75図 12号地点地形測量図



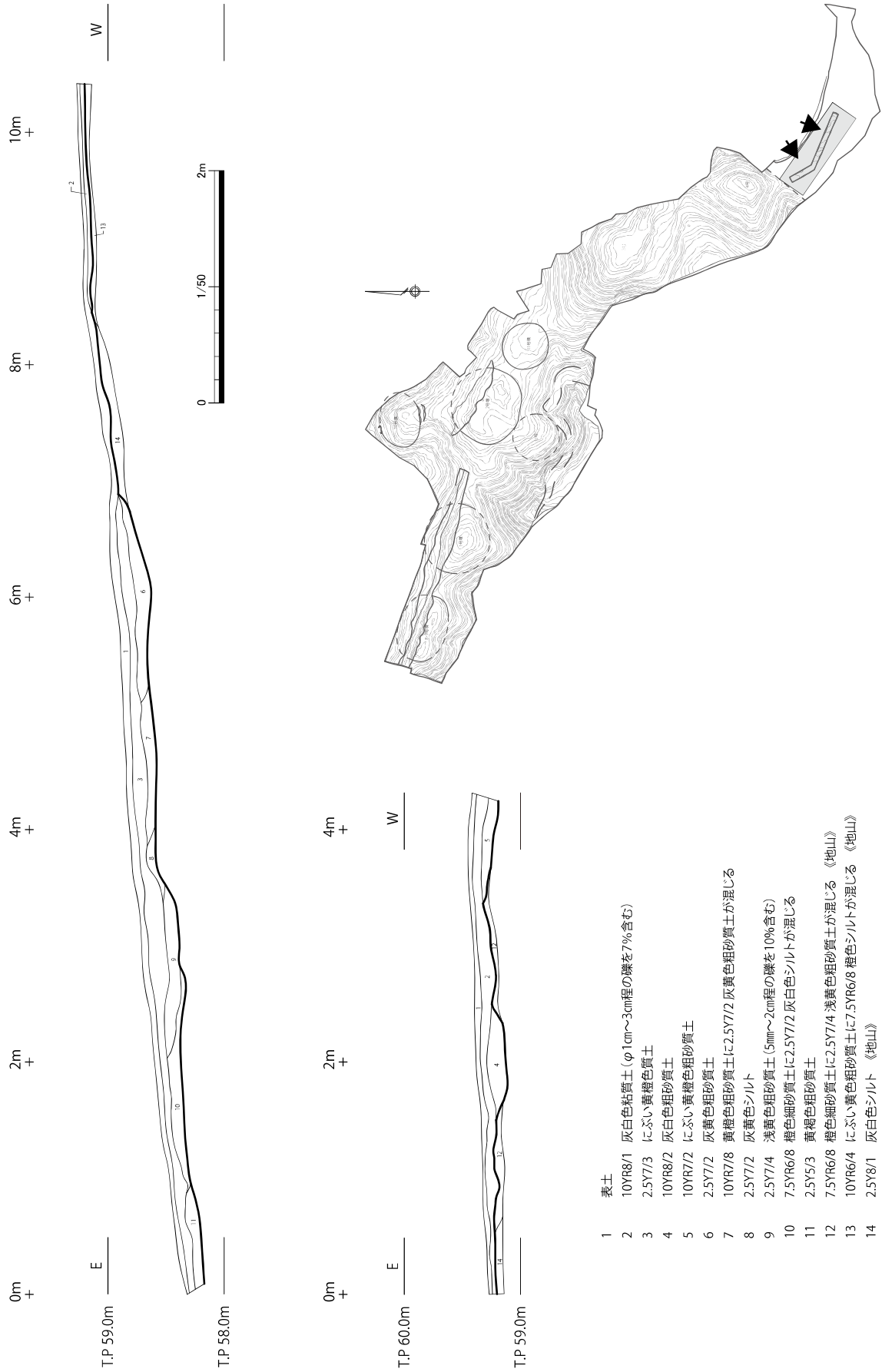
第 76 図 12号地点土層断面図

### 調査地東端トレンチ

調査地の東南端に位置し、4号地点東南の尾根で緩やかな斜面である。幅約1mでトレンチを設定した。表土、自然堆積の掘削後はすぐに地山面を検出した。遺構は検出できず自然地形の確認ができただけだった。遺物の出土はない。



第 77 図 調査区東端トレンチ完掘状況



第 78 図 調査区東端トレンチ土層断面図





第 79 図 12号地点調査風景(南から)



第 80 図 12号地点調査後全景(北から)



第 81 図 調査区東端トレンチ調査前全景（北西から）



第 82 図 調査区東端トレンチ調査風景（北西から）



第 83 図 調査区東端トレンチ完掘全景（北西から）

第 1 表 口仲谷古墳群一覧表

号数	形態	長径	短径	埋葬主体部	副葬品	備考
1号墳	円形	12m	11.4m	削平	-	北側削平
2号墳	楕円形	12.6m	10.8m	木棺直葬 2基	-	北側削平
3号						自然地形
4号						自然地形
5号墳	円形	6m	6m	木棺直葬 1基	-	
6号墳	円形	8m	8m	削平	-	
7号墳	円形	10m	10m	削平	-	
8号墳	楕円形	11.5m	8.3m	削平	-	北側削平
9号墳						1基と判明
10号墳	楕円形	9.6m	6.8m	木棺直葬 1基	-	東側削平
11号墳	円形	8m	8m	削平	-	南側削平
12号						自然地形
13号墳	(円形)	(8m)	(8m)	削平	-	古墳か

※ 5・6・7号墳は（財）京都府埋蔵文化財調査研究センターが発掘調査した。

今回発掘調査した古墳の規模については、10号墳の径はほぼ断定できるものである。

しかし、その他は発掘調査時に確認した墳丘基底部の痕跡から推定したものがほとんどである。

なお、13号墳は完全な推定の径である。

## 5. まとめ

### 調査の総括

口仲谷古墳群では当初4基の古墳が確認されていたが、平成3年度（1991）に財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターが3基（5・6・7号墳）の調査を行った際さらに9基確認され合計13基の古墳が存在するとの認識にいたった。

今回の調査では残りの10基を発掘調査し、各古墳の規模及び平成3年度の調査で古墳時代後期と考えられたが、出土遺物がなく厳密な時期決定が困難であったため、時期の特定ができる遺物の発見を主眼として調査を行った。

調査により、3号・4号・12号は古墳ではなく自然地形であり、8号墳と9号墳は別の古墳ではなくひとつの古墳であったことが判明した。調査を先行させた支尾根上の10号墳で墳丘盛土と埋葬主体部を確認できたため、起伏をもつ支尾根上の1号墳・2号墳・8（9）号墳も同様に考えたが、それらを確認できたのは2号墳だけであった。起伏がなく、すでに削平もしくは流失によって墳丘盛土がないことが確認できた11号墳と1号墳、8（9）号墳では墳丘基底部とみられる傾斜変換線が確認できたにすぎなかった。13号墳については、支尾根上に築造された10号墳と同様な地形であり、相応な広さがあることから古墳の可能性は考えられた。しかし、南側は山道の造作のための削平もあり、古墳としての明確な痕跡は確認できなかった。

結果として、墳丘盛土と埋葬主体部が確認できたのは2号墳と10号墳の2基である。古墳と考えられたのはよくわからない13号墳を含め6基であり、平成3年度に調査された3基を合計すると、口仲谷古墳群には9基の古墳が存在していたことが判明した。築造時期については、今回の調査でも古墳に関係した遺物の発見は主体部からも周辺からも一切ないばかりか前後する時代の遺物もみつからなかった。このため前回の調査で古墳時代後期とされた築造時期について明確にできなかったが、盛土を持つ小規模な古墳が丘陵上に群をなすことから古墳時代後期と考えておきたい。

墳丘の形状としては円墳であるが、楕円に近いものが多かったとみられ、径も8～13m程度のもものとみられる。墳丘基底部は削り出した部分と自然地形を利用した部分があった。墳丘が残らなかった原因は明確にはできないが、後世の地形改変にともなう削平や基盤となる地山の上に砂質もしくは砂が多く混じった粘質土などを盛土としたが、うまく固まらず流失したことなどが考えられる。

2号墳は9基の中では規模が大きく、支尾根の平坦面が広い場所に位置するものであるため、おそらくこの古墳群のなかで最初に築造されたものと考えられる。その後、支尾根にそれぞれ築造され、築造する場所がなくなり支尾根にも展開されたものと考えられる。

## 2号墳・10号墳の築造方法と埋葬施設について

次に、墳丘盛土が残り、埋葬主体部を確認した2号墳と10号墳についてみてみよう。

**2号墳** 2号墳は主尾根の平坦面が広い場所に位置する。12～13mの円墳を築造するには十分な広さがある。築造に際しては、自然地形の凹地を土で埋めて平坦に近い面を作り、その上にさらに盛土を行い、墳丘を造り、墓坑を掘って木棺を埋葬したと考えられる。2基みつかった埋葬部はともに地山まで掘りこむのではなく、墓坑底面は第1主体部の東端部を除き盛土内でとどめられていた。

墳丘の北側は削平され、根による攪乱も多く、10号墳のような区画溝もなく、古墳全体の規模は厳密には明確でない。

墳丘規模や築造方法は一般的なものと考えられるが、2基の埋葬部の並び方は他の古墳群ではほとんど類をみないものであろう。それは、古墳で埋葬部が2基以上ある場合、通常は並列かそれに近い状況でみられるが、2号墳では2基が直列して並べられたものであった。また、ほとんどの場合で副葬品は少なからず1つは出土しているが、ここでは2基ともに副葬品がみられない。2号墳の北側は削平されており以前の地形は不明であるが、古墳そのものを築造する広さは十分にある。しかし、墳丘を築造する過程で、まず地形の凹みに土を入れ基底部を造成したが、古墳の形状が楕円形であると推定できることからみて南北にはそれほど広く造れなかったため、横には埋葬できずに直線的に並べた可能性も考えられる。また、第2主体部が追葬ではあろうが、第1主体部と第2主体部の墓坑掘方には切り合い関係は明確でなく、第1主体部を避けるようにして底面の高さもほぼ同じ高さまで掘りこんでいる。そのため、同時期に埋葬された可能性も考えられる。

**10号墳** 10号墳の埋葬主体部は1基であり、古墳の築造の方法がわかるものであった。まず、地形上の制約によるものか区画溝を楕円形に配置して規模を確定したと考えられる。一旦南側の平坦面から北側の斜面に向かって土を盛り、その後、西斜面に向かって土を盛って墳丘下部を造り、そのまま上部となる土を盛って墳丘を造ったと考えられる。なお東側は削平されているため不明である。最後に地山直上の盛土まで墓坑を掘り、木棺を埋葬していた。しかし、10号墳の主体部でも副葬品はみられなかった。

主体部の底面北側に土壙状の遺構がみつかったため、位置的には古墳築造にともなう地鎮の跡の可能性が考えられるが、根跡の可能性も否定できない。

## まとめ

口仲谷古墳群の周辺には、現在は八幡市域となっているが女谷・荒坂横穴群をはじめ狐谷横穴群、美濃山横穴群があり、調査地の北方には京田辺市域の松井横穴群がある。古墳時代後期には合計すると数百基以上の横穴が造られたと予想され、南山城地域で最大の古墳集中地域である。これら横穴群は平地を見渡せる場所か平地に近い場所に位置している。また、美濃山丘陵の横穴群の近隣には後期古墳があり、松井横穴群の近隣には天神社古墳



群がある。この中で発掘調査されたものは、ほぼ副葬品が出土しているようである。そして、これらの築造以前には美濃山遺跡などの弥生時代以降の集落遺跡が重なり、周辺を含め常に生活もしくは祭祀に利用されていたようである。

しかし、口仲谷古墳群は周辺とは異なり単一の遺跡で、平地から奥まった場所に位置しており、横穴群からも離れたさらに奥の丘陵地の尾根上に存在している。考えられることは、口仲谷古墳群と横穴群が古墳時代後期に平行して存在し、横穴の築造が盛んであった時期でも、古墳を築造する必要があったため、横穴群とは距離があり隠れるような場所をわざわざ選んだ。口仲谷古墳群を築造した集団は横穴群を築造した集団とは異なる集団であった可能性も考えられる。また、副葬品がない状況を考えるならば、周辺で横穴が築造されるなか、大々的に古墳を築造して土器や装飾品などの副葬品を用いて祀ることができず、植物などの有機質を使いひっそりと祀ったのではないかとみられる。

調査の結果としては、古墳とされた10基の中で円墳5基と円墳の可能性のあった1基が確認でき、3基は自然地形であったと確認できた。また、直線的に木棺を並べて埋葬した古墳があり、遺物が全く出土しない特異な古墳群であったことが確認できた。

しかし、古墳の築造方法や規模からは古墳時代後期の古墳とは考えられるが、副葬品などの遺物が出土していないことで時期の特定は困難である。それにより、近隣の後期古墳や横穴群、集落遺跡との時間的なつながりや関連性を考える上での物的資料がない。また、古墳自体が削平や流失したことも加えると口仲谷古墳群内の築造の変遷が追えないなどの問題もあるが、横穴群が隆盛する時期にこのように横穴群の近くの奥まった丘陵地にあえて墳丘を持つ古墳群を展開する状況は興味深いものである。

〈参考文献〉

- (財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター「口仲谷古墳群」『京都府遺跡調査概報』 第51冊 1992
- (財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター「女谷・荒坂横穴墓」『京都府遺跡調査報告』 第34冊 2004
- (財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター「柿谷古墳・美濃山遺跡」『京都府遺跡調査報告集』 第146冊 2011

## 報告書抄録

ふりがな	くちなかたにこふんぐんはくつちょうさほうこくしよ							
書名	口仲谷古墳群発掘調査報告書							
副書名	松井宮田54-1ほか造成工事に伴う発掘調査							
巻次								
シリーズ名	京田辺市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第40集							
編著者名	鷹野一太郎・河野凡洋・大橋裕子							
編集機関	京田辺市教育委員会 特定非営利活動法人 文化財支援センター							
所在地	〒610-0393 京都府京田辺市田辺80番地 〒611-0041 京都府宇治市槇島町十八9番地							
発行年月日	2014年 3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
口仲谷古墳群	京都府 京田辺市 松井宮田 54-1ほか	26211	115	34° 50' 21"	135° 43' 30"	2011年 12月16日 ～ 2012年 7月31日	2,209㎡	造成工事に 伴う
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
口仲谷古墳群	古墳群	古墳時代	円墳	なし		低丘陵地尾根上に造られた円墳を検出。円墳6基を確認		



平成26年（2014年）3月30日 印刷

平成26年（2014年）3月31日 発行

## 口仲谷古墳群発掘調査報告書

—松井宮田54-1ほか造成工事に伴う発掘調査—  
（京田辺市埋蔵文化財調査報告書 第40集）

発行 京田辺市教育委員会  
〒610-0393 京都府京田辺市田辺80番地  
電話 0774-62-9550

編集 京田辺市教育委員会  
特定非営利活動法人  
文化財支援センター  
電話 0774-28-6602

印刷 あおぞら印刷株式会社  
〒604-8431 京都市中京区西ノ京原町15  
電話 075-813-3350







